聖徒の道

2

1958年3月17日第3種郵便物認可（毎月1回1日発行）第8巻第2号　1964年2月1日発行

SEITO-NO-MICHI

聖徒の道 第八巻 第2号

1964年 2月号

一九六四年度の目標

一、すべての支部はアロン神権の定員会とグループを組織することによってアロン神権計画を完成する

二、改宗者のバプテスマを増加する

三、神権会出席率を伝道部平均三十パーセントから四十パーセントに上げる

四、聖餐式出席率を伝道部平均二十パーセントから三十パーセントに上げる

五、神殿訪問計画の資金及び霊的準備を完成する

予言者のことば

善い行い……デビド•O•マッケイ… 74

伝道部長メッセージ

神権の権能とその救用……ダワエン•N•アンダーセン… 78

質疑応答……ジョセフ・フィルディング・スミス長老… 81

己が信仰によりて……アルマ•P•バートン… 84

末日聖徒イエス・キリスト教会歴史枠(41)ジョセフ・フィルディング・スミス長老… 91

メルケゼデク神権 …… 89

「奇しきみわざ」出版祝賀会 ……104

系図のみちしるべ ……107

MIAリーダー ……108

伝道部扶助協会長メッセージ……ペギー•ヒュイシ•アンダーセン…112

ジョセフ・スミスの生涯 ……114

扶助協会レッスン ……120

支部だより …… 97

伝道部だより ……102

表紙

「わたしは生きるかぎり、主にむかって歌い、ながらえる間はわが神をほめ歌おう。」詩篇一〇四章三三節

自分を忘れて、神のみ名を讃美するために心をこめてうたう時、美しい歌は神のみもとにとどくのである。

教会堂に集い讃美歌を歌う家族は第一副伝道部長山田五郎兄弟の家族である。

大管長会

左から　第一副管長　ヒュー・B・ブラウン　　大管長　デビド・O・マッケイ

　　第二副管長　N・エルドン・タナー

予言者のことば

善い行い

大管長　デビド・O・マッケイ

スカウティングの父、サー・ロバート・バーデン・パウエルは、ボイ・スカウトたちが行いの善い法則を固く守るのをほめて、

「単に悪い癖のつかぬように自分自身を守るだけでは充分と言えない。あなたがたは善い行いも積極的にしなくてはいけない。善い行いをするとは、あなたがたが、友だちでも見知らぬ人でも、ほかの人々に「小さな親切」をすることによって自分自身を役に立てることを言う。それはむつかしいことではない。それにとりかかる一番よい方法は、毎日だれかに少くとも一つ「善い行い」をしようと決心をすることである。そうすればあなたがたはいつも「善い行い」をする習慣が身につくにちがいない。

その「善い行い」はどんなに小さなことであっても、たとえば年とった婦人を助けて道の向う側へわたらせてやるとか、人に悪く言われているだれかに親切なことばをかけるとかいうことにすぎなくてもかまわない。

大切なことは何かを実行するということである。……あなたがたは今日ただ今それを始

めるべきである。そして、もしもあなたがたが私に手紙を書いて自分のする一番始めの「善い行い」について話したいというなら、私はそれを喜んでうかがいましょう」と書いたことがある。これはスカウト・プログラムの中で毎日「善い行い」を実行することについて言われた最初のことばであると信じられている。そして、それはロンドンのボイ・スカウトたちに南アフリカから手紙で送られてきた。

私は、マッケイ姉妹と私とが、アルメニヤ伝道部の名前で最初の大会が開かれた際、それに出席するためにシリヤへ行ったとき、聖書で名高いシカルの町で経験した一つの出来事をお話ししよう。

ヤコブの井戸の側でサマリヤの女に教えをお授けになった救い主の話は、これまでずっと私が好んでいる聖書の題目である。それで私は、この時私たちをのせて走っていた車の運転手が、シカルで車をとめて、この歴史上有名な所を訪ずれる特権を与えてくれることを望んでいた。しかし、この運転手は前以て私たちに、ヤコブの井戸のところで車をとめている時間はないでしょうと話していた。

しかし、不思議に思ったことであるが、私たちがちょうどシカルの町に入ったとき車の前輪がパンクした。運転手はひじょうにがっかりしたが、私はそれをほとんど神のみこころであると思った。それで、私とマッケイ姉妹とはすぐさまこの機会を利用してヤコブの井戸を訪ずれた。

そのとき私たちの側にその土地の少年が立っていた。この少年だけが英語を理解することができたので、彼は喜んで私たちを案内しましょうと言った。私たちはひじょうに興味深い四十五分間をそこに費やして、私たちがその場所に望んだすべてのことを果すことが

できた。

私たちが車のところへ戻ってまた出かけようとするとき、私はその少年に「チップ」をさし出した。私は彼の思いやりは報酬を受けたいと思って示したものと思っていた。ところが、その少年が直立して「いえ、いただきません。私がお役に立ってうれしいです。私はボイ・スカウトです」と言ったのを聞いた私の驚ろきを想像したまえ。

ほかの人々にこのような思いやりをする訓練を受けた少年をもつことが、全世界にとってひじょうに意味のあることを考えられたい。またその背後にある原則を考えていただきたい。……「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者のひとりにしたのは、すなわち、わたしにしたのである」（マタイによる福音書二十五〇四十）。

少年たちは時にがっかりすることがある。少女たちもまたそうである。彼らは友だちよりも自分がずっとおくれていると思って、ひとりで涙にくれることが度々ある。私たちは、このような少年少女に、またそれより年長の者にも、祈りをして「天の父なる神」に訴えなさいと言う。スカウトの誓いの最初の部分は「名誉にかけて、私は神に対する私の義務を果すために全力を尽します」と彼らに方針を明らかにしている。

もしも、すべての若い人々と両親と実業家たちが、私がこれからお話する或る指導者、すなわち或る工場の工場長をしていた人の模範に従がうなら、これより善いことはないと思う。ある朝早く、一人の有能な幹部職員がこの工場長の秘書のところへ来て、「工場長に会いたい」と言った。するとその秘書が「おあいにくでございますが、工場長は会議に出ていらっしゃいます。どなたにもお会いにならないと仰しゃいました」と言うと、その人は「会議に出ているはずがあるものか。事務室には工場長一人きりだ（彼は工場長がそ

神権の権能とその効用

「神権とはいかなるものなりや。そは天地を問わずそれを支配する神の権能なり。何となれば、天地間の万物を支配し、万物を支え万物を維持するものこそその権能、力、もしくは根本の原理なればなり。神権は万物を支配し、万物を維持す。されば神と真理とが合体せる万物と関係あり。すなわち神権は天上における「英知」に、また地上における人間に委任されたる神の権能なり」（ジョン・テイラー大管長）。

神権とは神の権能にほかなりません。 人間がこの権能について隅から隅まで完全に理解することはできませんが、近代において神権と完全な福音が回復されましたので、私たちはこの権能の実態についてかなりの理解を得ることができます。

創造する力。 神権によって多くの世界が生じ、生命がその上に置かれます。神権によって恒星や惑星の廻転と時と季とが支配されます。神権は天地宇宙を支配する力であり、また人類に祝福と進歩とを与えるために教会を組織運営する力であります。

儀式を執行する権能。 神権をもつ者は神の王国である教会へ入るために必要な儀式を執り行なう権能があります。生きている者と死んだ者との差別なく、これにバプテスマを施こし聖霊を授け、また聖餐をわかち与えることも、神権をもつ者によって執り行なわれなくてはなりません。神権がなければこれらの儀式は神に受け入れられないからであります。メルケゼデク神権をもつ者は、正当な鍵を持つ者の指示を受けて他の者を神権者に按手聖任する権能があり

伝道部長
ダワエン・N・アンダーセン

ます。

福音を説き教える権能。　過去から現在にいたるまで、神のことばは神権の権能によって宣べ伝えられています。だれでも義しい教えを教えることができますが、神権の権能によって召され特に任命されている者のほかはだれも聖霊の「みたま」によって福音の根本真理を有効に説き教えることはできません。

「みたま」の賜。　これらの賜はいつもイエス・キリストの教会と共にあり、神権の力を証明して居ます。「信じる者には、このようなしるしが伴なう。すなわち、彼らはわたしの名で悪霊を追い出し、新しい言葉を語り、へびをつかむであろう。また毒を飲んでも決して害を受けない。病人に手をおけばいやされる」（マルコによる福音書十六〇十七―十八、「教義と聖約」八十四〇六十五―七十二参照）。これらの賜についてはまた「信仰箇条、第七条」に「われらは異言を語る力、予言する力、啓示、示現を受くる力、病を医す力、異言を釈く力等の賜あることを信ず」と説明をしてあります。神権をもつ者は天が開けて啓示を与えられる力、もしくは病人をその病の床から起き上らせる力をもって居ます。これらの賜は人類の永遠進歩にとってなくてならぬものであります。

結び固めの権能。「わたしは、あなたに天国の鍵を授けよう。そして、あなたが地上でつなぐことは、天でもつながれ、あなたが地上で解くことは天でも解かれるであろう」（マタイによる福音書十六〇十九）。今日、墓を越えたかなたの世にまで力の及ぶものは神権のほかに何の力もありません（「教義と聖約」百三十二〇七また四十五―四十六参照）。神権の権能により、また神の宮居（神殿）で行なわれる儀式によって、夫婦とその子供とは、各自がその誓約を忠実に履み行なうかぎり、永遠に一つの家族として「結び固め」られるのであります。神権をもつ者は、生きている者にも死んで居る者にもこの儀式を執り行なう権能があります。

家長として管理する。　教会によれば、家庭は父親を家長に戴いて、授けられたその権能と神権の霊気によって管理されるように組織されています。父親は代表者であって、家族のために最終の決定をする権限をもっています。そして、食卓についたときにも祈りを捧げるときにも管理をし、家族生活の全体に一般の指示をいたします。父親は自己の家族をあずかった管理人として主なる神に責任をもっています。

神権の鍵。　神権をもっている者は一人のこらずみな神に代って執り行なう権威と権能をもって居りますが、この権能の行使を命ずる権能は「神権の鍵」と言われています。すべての鍵をもっている人は一代一人かぎりであって、この人こそ予言者である教会の大管長であります。教会の大管長は必要に応じてこの鍵の一部をほかの者に委任することができます。これが神殿の儀式やそのほかいろいろの儀式のような教会の公式の活動を管理指導する権能であります。

神権のすばらしい権能とその効用とは、神権をもつ資格があるかないかによって左右されます。「見よ、召さるる者は多けれども選ばるる者は少し。選ばるることなきは、これそもそも何の故ぞ。それは、人の心甚しくこの世につけるものの上にあり、唯々人間のほまれを得ることをのみ望み、次の如き一つの戒めを知らざるによる。曰く、神権の権能は天の能力と固く結びつきて離るべからざるものにして天の能力は正義の原則によりてのみ支配し運用し得るものな

り」（「教義と聖約」百二十一〇三十四―三十六）。

その運営の方法は「教義と聖約」第百二十一章、四十一―四十六にあるように独特かつ神聖なものであります。「如何なる権力も勢力も神権によりて維持する能わず、また維持すべきものにあらず。ただ説服と堅忍と柔和と温清と偽わらざる愛とによる。また、親切と浄き知識すなわち偽善にあらず奸知にあらずしてその人を甚だ大いならしむるものによる。すなわち、聖霊に感動しては機に臨みて激しく人を責む。然る後、また彼の汝を敵視せざらんために責めたるその人に一層の愛を示す。かくて、彼は汝の誠実は死のきづなよりも強きことを知るべし。すべての人に対して、また信仰ある家族に対して汝の腹中を慈愛にあふれしむべし。絶えず徳を以て汝の想をかざるべし。然るときは汝の自ら信ずること神の前に強くなりて、神権の教理は天より下る露の如く汝をうるおさん。聖霊は常に汝の伴侶となり、汝の笏は真理と正義の変ることなき笏となり、汝の支配は永遠の支配となりて強いらるることなく永遠に汝に流れこまん」。

ある人の霊の状態は、その人が自分に授けられた神権をあがめて用いる程度によってきまります。これと同じように、霊の方面に関する支部の状態は支部の神権者の忠実さによってきまります。神権をもっている教会の兄弟たちが各自の義務を尽すときに、教会は安全で進歩発展いたします。しかし、教会の兄弟たちがその義務をおこたるならば教会の進歩はおくれます。

それでありますから、充分資格のある忠実な神権者があらわれるとき始めて日本と沖縄に教会の完全なプログラムを行なうことができるのであります。満十二才以上の男の会員が神権を得ることは、その会員の一人のこらずにとって神聖な責任であり特権であります。ひとたび神権を受けたなら、その人は神権の権能を学び知ってこれを人類の祝福と発達のために用いる義務があります。

特別メッセージ

私たちは現在宣教師として召されている本伝道部の日本人宣教師たちの献身的なすばらしい働らきを喜んで居ります。日本人の宣教師たちはひじょうにすぐれた働らきをして居りますから、私たちは本伝道部で働らく専任宣教師の数をひきつずきふやして行きたいと思って居ります。

ところで、私たちは日本人の会員たちがこれらの日本人宣教師たちを待遇する能度について前々から気にかけて居ります。会員たちの中には、これらの若い人々がイエス・キリストの使者として召され、各自の神聖な職に按手任命されていることを忘れている人々があります。これらの宣教師は日本人であって日本国内で宣教師として働らいていても、わが教会の宣教師でありますから外国から来た宣教師と同様に待遇すべきであります。これらの日本人宣教師は一切の宣教師規定に従がうよう要請されて居り、わが教会を代表する者としてふさわしいような行動をするはずであります。一人一人の宣教師は自分が実践しなくてはならぬ規定をもちろん知っていますが、会員たちはこれらの宣教師と交わるに当って、時々かるはずみにもあまりに友だちあつかいをし無とんちゃくであります。このようなことは宣教師たち、とくに婦人宣教師たちにとって困ることであります。

私たちは、あなたがたがこれら立派な宣教師たちを尊敬し支持をなさるようどうか切に勧める次第であります。そして、これらの宣教師たちがその神聖なつとめを十二分に尽すことができるよう助力を与えて下さい。これらの宣教師は握手をしたり親しい挨拶を交わしたりするほかに異性と何の交歩も持ってはならないのであります。

伝道部長　ダワエン・N・アンダーセン

安楽死をさせるのは正しいか

質問

私たちがクラスで勉強していたときに、「苦しい不治の患者に施こす安楽死」が正しいと認められる時代が今までにあったかどうか、という質問が出ました。たとえば、ここにある老人の方があって、医者がとても治らないと言っている病気で危篤に陥っているとします。医者は、命をのばすことはできるが苦しみがつずくだけであって、結局死を避けることはできないと言います。この時医者が死を早める処置をとって、患者の肉体の苦痛を終らせてやったら正しいでしょうか。もしも医者が死を早める処置をとることに同意を与えたとしたら、医者とその処置を認めた人々とは共に罪があるとされて、さばきの時に責任を負わなくてはならないでしょうか。

質疑応答　　解答者　ジョセフ・フィールディング・スミス長老

解答

この質問に対する答えは簡単である。生命をとることは、カインがアベルを殺したときに罪であると宣告された。そして、このおそろしい罪を犯したために、カインは死刑に処せられるよりももっとおそろしい罪を受けた。ノアとその家族が箱舟から出てきたあとで、主なる神はこの誡命を再び新たにして「人の血を流すものは、人に血を流される、神が自分のかたちに人を造られたゆえに」（創世記九〇六）と仰せになった。

いかなる智者であっても、病気が最も重くなり、きわめてひどい苦しみになやんでいる場合に、回復の望みが絶えたと言い切れるであろうか。これまで見たところ瀕死の状態にあり、はげしい苦痛になやんでいた病人がついに回復した例は数多く報告されている。この質問に対して簡単に答えると、病気にかかっている人がとても治らない時期が来たので、安楽に死なせて苦しみを終らせるのが正しいであろうと考えるのは「出しゃばりな結論」である。ノアに与えられた神の誡命は今もなお有効であって、人間がこの世に居るかぎり神の律法の一部分としてつずくにちがいない。

この「安楽死」という問題は、はげしい苦痛になやんで見たところ回復の望みのない個人の場合にたえず起る問題である。またこれはひどい奇形をもって生まれたために、その者自身ばかりでなくほかの者たちにも命のあるかぎり重荷となる奇形児の場合にも考えられてきた問題である。しかしながら、罪を犯した人々につきまとって悩ます良心というものがあるので、これらの人々は罪を犯したという感情をいつも心に持って居り、心にけっして平安がないと思われる。

この問題に関する討論はいつまでしてもはてがないであろう。千九百三十五年に、この「安楽死」の問題は英国の上院に上程された。この議案は、人々が「安楽死」を望むとき、それを許されるかどうか科学に決定をさせるためのものであって、労働党の指導者ポンソンビー卿が提出した。この問題について「デゼレト・ニュース」は次のように解説をした。

「ほかの国における如く、英国においても最近不治の患者に安楽死を施こすことを合法化しようとする運動が盛んになってきているのが見られる。英国で行なわれた数件の『安楽死裁判』はこの問題に興味を起させるに役立って居り、著名な医師と教会指導者たちの支持する『安楽死会法化協会』はもはや一年以上も、或る場合に『安楽な死』と言われていることのために運動を展開している。

ある英国人医師が五人の「不治の患者」を安楽死させたことから多くの医師としろうとの人たちが、一生涯苦痛を受けなくてはならないのでむしろ死を欲している患者の苦痛を終らせることが正しいかまちがっているかについて議論をつずけている。

今、英国議会で討論をしている議案の条項によると、この法律は「保健大臣」に任命された調停官によって運営されることになっている。「安楽死」をさせるときには、その以前にこの調停官の許可を得なければならない。そして、「安楽死」を施こすことは「激烈な苦痛を受けるか、治らないで必らず死ぬ病気」の場合にとくにかぎられる。

「安楽死」をねがう病人は二十一才以上であって精神の健全な者でなくてはならない。そして申請書は自筆で書かれ、二人の医師の証明を要する。もしも「安楽死」が許されたときに、申し込んだ「安楽死」を施こすのはとくに認可された医師だけであって、しかも政府の証人の前で行なわれなくてはならない。

文明はそれを実現しないですでに解答を与えたようである。人類のもつ共通の良心は、だれでも他人の生命をとることが道徳上の罪であり犯罪であることを明言している。またそれと同時に法律が、王の意志であるにせよ人民の意志であるにせよ、人間の生命をとる権利をもつ唯一つの「人間の代理機関」であることを認めている。

国家によって、法律を執行する役人によって、または戦場における兵士によって人を殺すことは、現在正当であって悪事ではないと認められている唯一つの殺人である。従って、法律が是認しているならばその殺人は非難されない。しかしながら、なおわれわれはシナイの山でモーセに与えられた神の律法「汝、人を殺すべからず」という、広い意味において、いかなる場合にも人間の命をとってはならないという律法に真面しているのである」。

「安楽死」の問題が英国で討議されている間に、「ソルトレーク・ツリビューン」紙もまたこのような根本方針を立てることを非難する側に加わり次のように論じた。以下は千九百三十五年三月十二日の社説から抜粋したものである。

「人を殺すべからずという禁制は、われわれの文明の中に強く且つ深く根をおろしているので、それが正しいか正しくないかというような問題がわれわれの考慮にのぼることは稀である。公衆の感情がおおよそ互角にわかれているもっと議論の余地がある論争とはちがい、正当な殺人に関する一般の信念はこの問題を議論のそとに置く傾向がある。

しかしながら、正しいか正しくないかどちらにしてよいかわから

ぬ事件が起ると、それはニュースだけではない事になる。それはまたわれわれの信念を固める基となる好い機会でもある。それであるから、英国で六十二才になる老婦人が低能児であるその息子を故意に「眠らせた」事件がひじょうに評判になった。この婦人は裁判を受け有罪であると宣言されて、彼女が三十年間にわたって看護してきた病弱な息子を殺したかどにより絞首刑を宣告された。しかしながら、英国の大衆がいたるところで減刑の要求を行なったのにこたえて、英国の内相は最近この婦人に刑の執行猶予を申しわたした。

多くの人々は、この人の手にたよらなければならない不具者を、苦痛なしにあの世へ送ったことは正当である、むしろ慈悲であるという理由で、この善意の老婦人のしたことを正しいとするであろう。しかしながら、このような議論は、この問題に含まれている社会的影響に対して全くめくらである。多くの人々の言うような前例を正しいとするならば、単に親だけでなくだれであっても、或る人間、それが不具者だけでなくほかの人間でも死んだ方が一層楽であるときめる権利があると考えるかも知れない。こうなると復讐の精神でまたは偏執病的信念によって、自分自身の高ぶった判断により人は全然権能がないのに、また全然正しいとされないのに一服盛らないとはかぎらない。

自然の欠陥の多くを補うことにあるていど成功している文明と、長寿の技術をちょうど学び始めただけの社会において、故意の殺人を行なうことを奨励するのは少々早すぎると思われる。さらに、ある特殊の病気またはある一定の欠陥が不治であるかどうかという問題は容易にきめられない。ある病気なり欠陥なりが不治であるとは必らずしも当然のことではないからである。たとえば、われわれは僅かな内分泌学の知識しかもっていないけれども、幼年期に適当な処置を施こすならば、またもちろんその欠陥が遺伝によるものでないならば、ブラウンヒル夫人が「慈悲を以て眠らせた」あの息子のような多くの低能者は治癒するかも知れない。数年前まで不治であると考えられていた多くの状能が、今や治癒とまでは行かなくとも改善が可能であることがわかってい。たとえば、インシュリンが発見されるまで糖尿病の治癒は絶望であった。またひじょうに最近まで悪性貧血症は致命的であると考えられていた。狂人の全身麻ひに対する予後は、オーストリヤのある精神病医が、精神異状のあらゆる形態に最も有望な処置の一つとなった治療法を発見するまで、不治であるといたるところで考えられていた。ながらえていても無益な生命を苦痛なしに絶ってやるということが慈悲であると思える場合が多くあることは認める。しかし、実際的の問題は「だれが決定するか」ということである。熟練した高潔な医師にいつでもこのような点について自由裁量をまかすほどには公衆の感情が明らかに熟していない。

われわれ人間の知識には限りがあり、人間性には弱さがある故に、少数の絶望的な不具者の生命と、人の親または「根絶者の会」に生死の問題をきめさせるために起るかも知れぬ破壊的の影響とを天秤にかけてくらべるべきではないと思われる」――（以上社説欄より）。

われわれは、あらゆる人間の生命が主なる神の御手の中にあることを忘れぬようにしよう。死ぬべき身をもっている人間は、不具な人がこの世に生きながらえるべきか、またはこの世からとり去られ

（88頁に続く）

己が信仰によりて

―イノス書第八章―

アルマ・P・バートン

これまで人間が受けたことのある神に関する「あかし」について多くの注目すべき記事が記録されているが、これらの「あかし」は聖霊の証言を通じて、また「父なる神」と御子のあらわれによって人に与えられた。ロレンゾ・スノウ（大管長）はバプテスマを受けて二・三週間たった後、自分の考え方によると、神のみわざの真実であることについて満足な知識を得ていなかったことをつくづく考えていた。

彼は自分の本をさし置き、家を出て、陰うつな心に支配されて野原をさまよって歩いたが、そのとき暗黒の雲が彼をとりまいて居るように思えた。彼はいつも夕方になると自分ひとりで祈るために林の中へ行くのが例であったが、このときは少しもそうしたい気持ちにはなれなかった。しかし。とうとういつものようにひとりで祈る時が来たことを知ると、彼はその気にはなれないけれども祈ろうと心にきめた。

彼が祈ろうとして口を開くやいなや、彼は頭のすぐ上で絹ずれのような音のするのが耳に入った。そして聖霊が直ちにお下りになって、彼の全身は完全に包まれ頭の上から足の先まで霊気に満された。

「おお何という喜びと幸福の感じであろうか！ 心と霊をおおっていた暗雲がほとんど瞬間に消えて光りと知識がさんらんと輝やき出した、と私には思えたが、それはことばで以てあらわすことのできない経験であった。その時私は、神が生きたまい、イエス・キリストが神の御子であり、聖なる神権と完全なる福音とがこの世に回復されたことが完全に解った。その経験はまことに完全なバプテスマ、すなわち（この世の水に比ぶべき）天の霊気、聖霊に全身を没し、全身で感じとったバプテスマであった。またそれは水に沈めるバプテスマよりも、本当にもっと真実にまた私の肉体の全細胞にもっと強い力を及ぼすものであった。

私は完全に満足した。私の希望する以上のことが実現したのでそれはもっともなことであった。私は無限に満足したと言ってもまちがいではないと考える」

註。アルマ・P・バートン及びクレア・M・バートン共著「モルモンの歴史からの物語」十七頁参照。

「あかし」をもっている大ていの教会員は、彼らに与えられる聖霊の証言にもとずいてその「あかし」を得ている。しかし、「あかし」があるといっても、スノウ大管長のようなすばらしい経験によってその「あかし」を得た者はごくわずかである。また聖霊の証言

を得た上に、「救い主」が親しくあらわれたもうた結果、神の知識を得たことのある人々がある。

予言者ジョセフ・スミスは、聖霊を通じて「あかし」を得るばかりでなく、主イエス・キリストがじきじき現われたもうことによっても「あかし」を得ることがあることについて次のように言明をした。すなわちこれらの神聖なめぐみについて論じ、

「聖書に言われている『別の助け主』(慰め主)はきわめて重要な問題であるが、今の時代の人々でこれのわかっている者はごくわずかであろう。ある人はキリストを信じ、自己の罪を悔い改め、それから罪の赦しを得るためにバプテスマを受け次に按手によって聖霊を受ける。この聖霊は『第一の助け主』(もしくは慰め主)である。それからこの人が神の御前にたえずへりくだり、飢え渇く如く義を求め、神のあらゆる言葉に従って生活するならば、主は間もなく彼に『子よ、汝は高めらるべし』と言いたもうであろう。主が彼を完全にためした末、この男はいかなることがあろうとも主に仕える決心をしていることが解りたもうと、彼は『自分の召しと選びが確実にされた』ことを知るにちがいない。そうすると、彼はヨハネの「あかし」に記録してある通り(ヨハネによる福音書十四〇十六参照)、主が聖徒らに約束したもうた『別の助け主』(慰め主)を受ける特権をもつにちがいない。

「さて、この『別の助け主』(慰め主)とは何であるか。それは主イエス・キリスト御自身にほかならない。またこれが全体を要約した要点である。すなわちだれでもこの『第二の助け主』(慰め主)を得るときには、イエス・キリスト御自身がつき添って下さる、すなわち折々彼にあらわれて下さり、または彼に『父なる神』をあらわしてさえ下さる。そして『父なる神』とイエス・キリストとは常に彼と共にましまし、主は彼に顔と顔とを合わせて教えたもう故に、彼は神の御国の奥儀を完全に知ることができる。そして、これが古代の聖徒たち、すなわちイザヤ、エゼキエル、第三の天まで引き上げられたパウロ、パトモスの島に在ったヨハネ、天使の総集いと長子の教会とに親しい交わりをもったすべての聖徒たちが彼らに許された栄光にかがやく示現を得たときに達したときの状態であり位置である。

註。「予言者ジョセフ・スミス説教集」十三—十四頁参照。

先の時代の予言者イノスは「あかし」を得るように祈ったときに経験したことを証言して次のように述べた。

「ごらん、私は獣を狩ろうとして森へ行ったが、私の父が永遠の生命と聖徒の幸福について教えた言葉を度々聞いたのが私の心に深くしみこんだ。

「そこで私は自分の心が飢えるのを覚えて、私の造り主の御前にひざまずき、自分の身と霊のために一心こめて祈りかつ願った。私は本当に一日中神に祈り、夜なってもまだ私の声が天にとどくほど大きな声で祈った。

「すると一つの声が聞えて『イノスよ、汝の罪はすべに許されたれば汝は祝福を受くべし』と仰せになった。

「私イノスは神が必ず偽を仰せにならないことを知っていたから、私の罪はすでにこれで取り消されたのである。

「しかし私が主よこれはどうしてそうなりますかとたずねたところ、

「主は、それは汝がこれまでに見しことも聞きしこともなきキリ

ストを信ずるによる。このキリストは多くの年月を経てはじめて肉体にて現わる。されば汝努めよ。汝は己が信仰によりて無罪となれり、と仰せになった」（イノス書三―八参照）。

イノスはこれよりさき父から永遠の生命について教えを受けていて、父の教えがひじょうに価値のあるものであることを認めていた。それであるから、その教えのためにイノスはモルモン経にしるしてあるように神に祈りかつ願うに至ったのである。「自分の心が飢える」ということばの深い意味をよく考えられたい。空腹ということばの意味は容易にわかる。しかしながら、心に飢を覚えるとはどういうことであろうか。われわれの心がいつも正しい営養を与えられていないということがあるだろうか。多くの人が心の生長をさまたげ、霊の生長を阻止しているということは有り得ることである。イノスの心はひじょうに飢えていた、それで彼の感ずる満足が主から与られることをひじょうに望んだので、イノスは一日中夜になっても神のめぐみを祈り求めた。イノスの切なる願いにこたえて主のみ声が彼に聞え、彼の罪がすべて許されたので彼は傷なくしみなく無罪であるという保証を受けた。そこでイノスはどうしてそうなりまするかと主に伺ったところ、主は「汝は己が信仰によりて」そうなったのであるとお答えになった。イノスはわからないことを聞きたいという考えで主に伺っただけでなくて、その考えと共に自分の質問には主が必らずお答えをして下さるという心からの信仰をもって主に伺ったのであった。

モルモン経にあらわれる別の予言者である「ジェレドの兄弟」は、彼と彼の民が大洋を横ぎりアメリカへわたろうとしていたとき、イノスと同じように主なる神のめぐみを祈り求めた。ジェレドの兄弟は、主なる神が彼のつくった或る石に指をふれて、光を出す石になしたもうようおねがいをした。それは彼らが大洋をわたる際に舟の中に光があるためであった。ジェレドの兄弟はもちろんイノスと同様、主が親しく自分にあらわれて下さることができると固く信じていた。それは彼があの石を主の前にさし出したとき「主よ、汝はこれを為すことを得。汝が現わしたもうべき力は、人の目に小さく見ゆるも実は偉大なることをわれは知る」と言っているからである。

「ジェレドの兄弟がこう祈ったときに主がその手を伸して一つ一つ石にその指をさわりたもうと、ジェレドの兄弟の目から幕がとり去られて、ジェレドの兄弟は主の指を見た。その指は人間の指に似て血肉の指のようであったから、ジェレドの兄弟は恐怖に打たれて主の前に倒れた。

「主はジェレドの兄弟が地に倒れたのを見て、立て、何故倒れたるか、と仰せになった。

「そこでジェレドの兄弟は、主が血肉の指を持っておりたもうとは知らなかったから、主の指を見て、主が私を打ちたまいはせぬかと思ったからであると答えた。

「すると主は、汝の信仰厚き故に、われはわれがこの後血肉を受くる事実を汝に見せたるなり。これまで汝の如き大いなる信仰をこめてわが前に来りし者なし。汝も、もしこれほど熱き信仰を持たざりせば、わが指を見ること能わざりしならん。汝はわが指のほかに見たるものありや、と仰せになった。

「そこでジェレドの兄弟は、主よ指のほかには何も見ざりき。御姿をわれに見せたまえ、とねがった。

「すると主は、汝はわれがこれより告ぐることを信ずるや、と言

いたもうたから、

「ジュレドの兄弟は、主よ汝は真実の満ちたる神なる故、偽りが言えず真実を宣うことを知る、と答えた。

「かれがこう言うと、主は現われてその姿をジェレドの兄弟の目に示して言いたもうた。汝はこれらのことを知る故に、もはや始祖の堕落よりあがなわれ、帰されてわが目のあたりにあり。故にわれは汝に現れてわが体を汝に示す。

「見よ、われはわが民をあがなうために創世の前より備えられたる者なり。わはイエス・キリストなり。父なり、子なり。わが名を信ずる一切の者はわれによりて永遠に光を受け、またわが息子、わが娘となる……」（イテル書三〇五―十四）。

ジェレドの兄弟は主なる神を信ずる固い信仰をもっていたのに、主の姿が人間の姿そっくりなのを知って驚ろいた。しかしながら、まだ見ぬものをまこととする信仰が今や確実な知識となったので、主なる神は、ジェレドの兄弟に、汝はこれらのことを知る故にアダムの堕落からあがなわれ、帰されて神の前に在りと仰せになった。モロナイはこの経験について、

「すでに神を知ると言うような完全な知識を得たのであるから、ジェレドの兄弟が幕の内を見ることを禁ずることはできなかった。従ってジェレドの兄弟はイエスを見て、イエスは彼に導きとめぐみとを与えたもうた」としるしている（イテル書三〇二十）。

「この神権の時代」（あるいは末日）において、救い主は地上における数人の人々に現われたまい、その御声は「さきの時代」におけると同じように、これらの人々に天から聞えた。たとえば、ジョセフ・スミスは千八百二十年の春に「神聖なる森」の中で、「日の栄の最高に昇りたもうたお方」である「万人の父なる神」と「世の救い主」とのお二方が現われたもうのを見た。またオリヴァ・カウドリとジョセフ・スミスとは、千八百三十六年にカートランド神殿で「救い主」を見た。またこの二人はイエスが「すなわち神の右に座したもう」のを見、「御父の生みたもう独子なりと証したもう声」を聞いた。そして「主は実に生きたもう」、われらこれを見たからであると宣言した（「教義と聖約」七十六〇二十二―二十三参照）。

ただ数人の人々がこのような経験をしている一方、聖霊の証言により神に関する確実な知識を得ている人々が無数にある。末日聖徒イエス・キリスト教会の会員はこの証しを得るように努めなくてはならない。

聖霊が一人一人に与えたもう証しは「天にまします父なる神」より来るのであって、この世のものを観察した結果与えられるものでないことはペテロの経験がはっきり示している。それであるから、もしもわれわれが聖霊の証しによって神に関する知識を得たいと思うなら、神を信ずる信仰をもたなければならない。人がこの方法によって神の存在に関する知識を得てから、神は祈りを聞いてこれにこたえたもうということを実際に認めるようになったら、彼は自分の知識と証しを増し強めるように努めなくてはならない。ある讃美歌に「祈りは霊の希望」と言ってある。まことにその通りであるが、これまで霊の底から出る希望を祈りに託したことのある者が何人居るであろうか。祈りをする者は多くある、しかしその祈りにこたえられた者が何人あるか。

神の事に関する知識を増すためには祈りばかりでなく、信仰も勉強も実行も必要である。もしも人が、ひたすら神の栄光を仰ぎ見て

その道を歩むなら、その知識が増して証しはいよいよ強まり、霊の事に関してますます知識がふえるにちがいない。聖霊の働らきによって福音の証しを得、また神に関する事について知識が増進するためには、多くの時間と勢力と冥想と祈りと勉学とを必要とするが、知識はもっとも重要であり価値がある。この世に於て達したものは、この世に於てもまた次の世に於ても、神が生きたまい、イエスがキリストにましまし、イエス・キリストの福音は地上に在る人類を救う永遠の計画であるという確かな知識に比べると何の意味もないものである。

世の中の人がイエスのことを何と考えようと、また「時の絶頂」（イエス御在世の当時）に使徒たちが話しかけた人々のしたように、イエスが「バプテスマのヨハネ、エリヤ、エレミヤまたはその他の人々、または数ある予言者の一人」であると認めようと、それはかまわない。大事なことは、われわれの一人一人が、自分の心の中で、ペテロの宣言したように、イエスはキリスト、生ける神の御子である、と知ることであるが、これは天からの啓示によってだけ伝えられることである。

予言者ジョセフ・スミスは「…聖霊によらなければ、だれも『イエスは主である』と言うことができない」（コリント人への第一の手紙十二〇三）という聖句は、正しくは「…聖霊によらなければ、だれでも『イエスは主である』と知ることはできない」であると述べた。イエスがキリスト、生ける神の御子、世の救い主であって、あらゆる神権の時代を通じて世々神の予言者たちが宣言したように、この末日に地上へ再臨したもうということはバプテスマを受けてこの末日聖徒イエス・キリスト教会の会員となったすべての者のもつ特権である。この知識は「己が信仰によりて」得られるし、また得られるにちがいない。

（アルマ・P・バートン、一九六三年二月「インプルーヴメントエラ誌）

（83頁より続き）

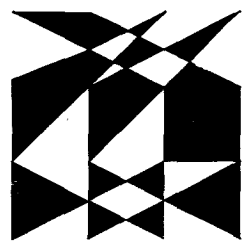
るべきかをきめる権利を与えられてはいない。またある人がいつ生涯を閉じるかを言うことも、われわれのなすべきことではない。神の御子の受けたもうたほどの激しい苦痛を受けた人間は、御子のほかに一人もない。みことばによると「その苦しみたるや、われ神、すなわちすべての中最も大いなる者なりといえども痛苦のために身をふるわせ、あらゆる毛の孔より血を湧かせ、身と霊とふたつながら苦しめ、すなわちこの苦きさかずきより呑まずしてしりごみするも可ならんことを欲したり。然はあれども、父なる神はほむべきかな。さればわれはこの苦しみをなめ、人の子らの為にととのえを為し終りたり」としるしてある（教義と聖約、十九〇十八―十九）。

われわれはこの問題につき注意深く考慮した後、もしもだれでも正常な精神の人がこのような行為を犯したなら、その良心のとがめを一生涯受けるにちがいないと結論しなければならない。どのような罰でも、罰を受けることに関するかぎり、それは最後のさばきまで延ばされる事である。

メルケゼデク神権

インプルーブメントエラ

（一九六四年二月号）



人間の「身も霊」もかちとるための戦いが活潑に行なわれている段階で、主の軍隊の隊長たちを白兵戦の行なわれている場から引きさがらせ、戦場からはなれて戦いの舞台を見わたさせるのはよいことである。この隊長たちが現在戦っている目的をはっきりと知ることができるなら、彼らは心を新たにし、もっとよいチームワークで勝利を得るために戦いに入って行くにちがいない。

この戦いに従事している「主の軍隊の隊長」とは「定員会の会長」である。それならば、彼らが戦いの場からはなれて立ち、戦場を見わたし戦況を測っているとき彼らは何を見るか。彼らが見るのは、すなわち、

㈠三つの常任委員会の目的は定員会を全速力でたえず前進させるために定員会が必要とするすべての活動をのこらず含んでいること。

㈡もしも定員会の会員が、定員会のプログラムの中で建設的な役割をもつはずであるならば、以上の定員会を利用するのが定員会の運営に最もよい方法であること。

㈢定員会の会長は「個人福祉委員会」を管理し、それによって定員会会員の福祉と慰安と経済上の幸福に対する責任をもつこと。

㈣副会長の一人は「教会活動委員会」を管理し、それによって定員会に活気と光彩とを与える。委員会の主な目的はこれによって人々が喜んで定員会に属するようにすることであること。

㈤副会長の一人は「事実調査委員会」を管理し、これによって他の二人の委員の努力をたえず測定し価値を検討する役をつとめること。

㈥会長会だけで処理をすることは、自分ひとりで決定をするよりも（他人の意見を聞いて決定をするよりも）楽であると同様に楽であるが、このような決定のやり方はだれのためにもならないこと。

それならば戦いに勝利を得るには、何が最もよい作戦行動であるか。彼らが再び戦いに参加する前に彼らは次のことを考えるであろう。

㈠各委員会の定員会プログラムといろいろな活動とは、「福音の精神」に乏しく、悪い習慣をもち、希望を持とうと思わない人が、前以て改心をしなくても働らきをするように招かれることのできる「唯一つの場」である。このような人は委員会の一人としてただちにプロジェクトにもとずいて働きに行くことができる。このような人は、その態度、習慣、行いがよくないので普通ほかの地位を考えることを考慮されていな

い。

㈡人を働かせるには、働らくようにたのむかまたは勤誘しなくてはならない。これは教会の根本原則である。人はたのまれても応じないかも知れない、しかしたのまれなければ応じることができない。その人がたのまれてもことわるならば、くり返したのむことがもっと切実に必要となる（このやり方には多くの方法があるから接近の仕方を変えること）。

㈢会員には、働らきをするかしないか、または割当てに応ずるか応じないかを自分できめさせなくてはならない。もしも会長が、この人はたのまれても聞き入れないと考えてその人にたのまないならば、会長はその人から決定の権利をうばうことになる。その人が何べんことわってもかまわない、（あきらめてはならない）、今度たのまれたら頼みに応じようと思っているかも知れないからである。

その人にはくり返したのまなくてはならない。ことわったための重荷はその人が負うにちがいないからである。もしも会長がこの人はだめだとときめたなら、会長はその人が働らくさまたげをすることになろう。

㈣もしも会長会の役員が活潑な会員だけに働かせるプロジェクトを計画するのに時を費やし、活潑な会員だけを働かせるならば、会長会の役員は不活潑な会員たちと共に働らく時がないにちがいない。

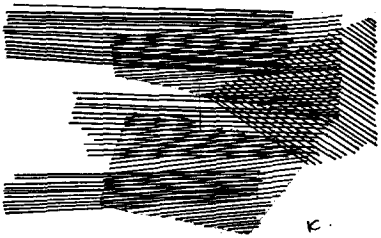
定員会の目的は、定員会の会員の活動と兄弟愛とを増すことである。もしもある一部の会員が不活潑であるなら、不活潑な会員も働らけるようにプログラムをきめるべきである。

㈤もしも会長会が毎週わずかな時間しか利用できないなら、その時間は不活潑な会員のために使うべきである。活潑な会員はいつもワード部（もしくは支部）の中でいそがしく活動している。

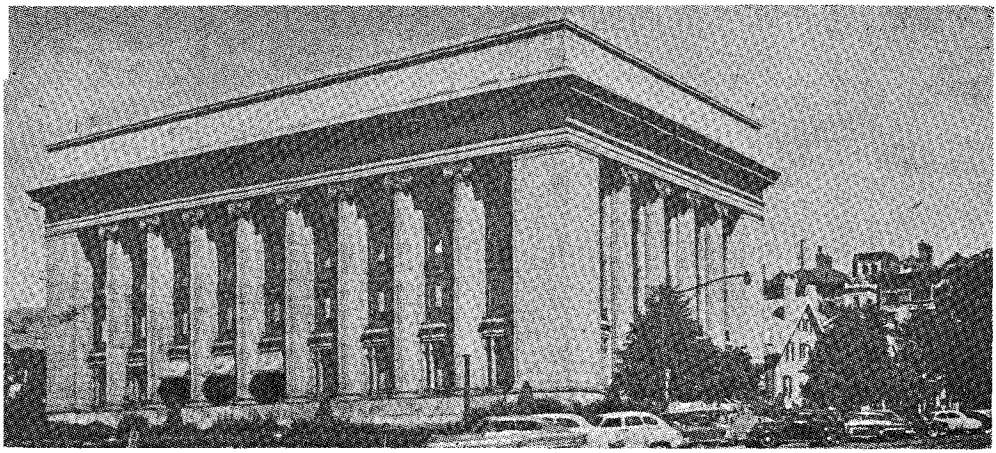
㈥電話ばかりにたよっていたら、ほとんどたしかにあなたの努力はむだになってしまう。割当てをするには顔と顔と相対して行なわなくてはならない。

㈦兄弟愛の効果を得るには共に働らき共に遊ばなくてはならない。

仕事をするには少くとも二人でするべきである。また小委員会をつくるにも少くとも二人でつくるべきである。一人では委員会にならない。



ジョセフ・フィールディング・スミス著



末日聖徒イエス・キリスト教会歴史粋　41

第三部　オハイオおよびミズーリ時代

第二十四章　ミズーリにおける難局――ボッグス知事の「撲滅令」

（千八百三十八年）

十八、アチソンの偽わりの報告。　さきに正義の精神と公明正大の態度を示したことのあるデビド・R・アチソン将軍さえ、当時その地方に広まっていたいつわりの精神に負けた。そして、クルーケット河の戦闘のあと、千八百三十八年十月二十八日附で、偽わりの報告をあの悪魔サムエル・D・ルカスと連名でボッグス知事に送った。それは次の通りである。

「拝啓。モルモン教徒がさきに無法な行動を起して以来内乱は避け難くなりました。モルモン教徒は国法を無視し公然たる反乱に出て居ります。小生等は現在彼等の行動を阻止するために武装した兵員約二千を所有して居りますが、目下総司令官の居られることが絶対に必要と考えられますによって、貴官におかれましては、できるだけ速やかに戦いの中心地に来られるよう催促申し上げる次第であります。敬具。

軍政府第三師団　デビド・R・アチソン
軍政府第四師団　サムエル・D・ルカス

ボッグス知事閣下」

二人とも偽であると明らかに知っているこのような文書に、アチソン将軍がルカスと連名で署名をするとは驚き入ったことである。しかし善人は時々負けることがある。アチソン将軍は、暴民の攻撃

に対して自己と自己の権利を防禦するだけであった聖徒らに反対する統一された努力の圧力に反抗することは明らかにできなかった。それでも、弱体である上に事実上無防禦の聖徒らが、このような侵害に抗することは重大なる罪であるように思われた。このような侵害に抗することは（反対派によれば）内乱という状態を起す罪であるからである。

このように暴民の精神に屈したために、アチソン将軍は良心に責められたにちがいない。後になって将軍は、聖徒たちに公明正大な精神を示したかどによって、知事によって「将軍の座から下ろされ」その指揮の権を解かれたからである。

十九、クラーク将軍に送ったボッグス知事の命令。 千八百三十八年十月二十五日、ボッグス知事はジョン・B・クラーク将軍に命令を出して、デビース郡の住民がその所有の財産を回復するに足る軍隊をつのれと命じた。その理由とするところは「彼らモルモン教徒は前記郡内のガラテンの町とミルポートの町とを灰燼に帰せしめた。この中ガラテンは郡内の中心地であって官庁やすべての公共の文書はその町に在る。そして、現在その郡内には一人の文官も居ない」ことであると知事は言った。そして、これら二つの町でまだ苦しめられていなかった人々を「回復する」ために、すでに武装している人々につけ加えてさらに二千人の兵をつのれと命じた。

二十、「撲滅令」。 ボッグス知事はさきのようにクラーク将軍にあてて兵をつのる第一の命令を出したが、クルーケット河の戦いの報告を耳にするや翌日さらに別の命令を出した。知事はモルモン教徒が「どこまでも戦かう」つもりであることを知ると、その心を大いに変えて、彼の恥ずべき「撲滅令」を出したのである。これこそミズーリ州の紋章を最大に汚したものであった。このような命令を出すことを、暴徒の仲間や下級官吏たちさえも示唆していたことは事実であるが、何ら悪事を働らいたことのない二千人の無防禦の市民をミズーリ州から根絶せよもしくは追いはらえという命令を、自分のもっている大きな地位の権限をもって州の民軍に出したということ、しかも何らの挑発も受けず正当な調査もせずに出したことはいつまでも、ミズーリ州知事であるリルバーン・W・ボッグスの責任である。この恥ずべき不正な命令は冬の真最中に執行されるはずであった。その時には、何のとがもないかわよい婦女子や罪のない幼な子たちは、厳寒にさらされて死ぬほかはなかったにちがいない。

クラーク将軍に与えたボッグス知事の「モルモン教徒撲滅令」は次の通りである。

「拝啓。私は今朝貴官に対し、貴官の管区内で四百人の兵をつのるよう命令を出したが、その後私の助力者であるアモス・リース殿およびワイリー・C・ウイリヤムス殿から最も戦慄すべき報告を受取った。これによって事態の様相は全く一変し、モルモン教徒が国法を公然と無視してこの州の人民に公然と戦いをしかける態度であることがはっきりしている。従って、貴官は作戦行動を急ぎ、出来得るかぎり速やかにレイ郡のリッチモンドに到着するように努力されたい。もしも公衆の利益のために必要ならば、モルモン教徒を敵として取りあつかい本州より根絶するかことごとく追い払わなくてはならない。モルモン教徒の無法な行動は筆紙に尽し難い。貴官が兵力を増強した時には、貴官が必要であると考えるところまでそうする権限を授ける。私はちょうど、今、マリオン郡のワロック少将に命令を出して、五百人の兵をつのってデビース郡の北部まで進ま

せ、そこでクレー郡のドニファン将軍の隊と合同せよと言ったところである。ドニファン将軍はモルモン教徒が北方へ退却するのを阻止するため、五百人の兵を率いて同地点へ進軍せよとの命令を受けている。彼らは急使によって、貴官と連絡せよと命ぜられている。されば、貴官もまた必要ならば彼らに貴官の意志を伝えられたい。従って、最初に命令した如く、デビース郡の市民をその住家に再び帰すために進軍するかわりに直ちにリッチモンドに赴き、モルモン教徒に対する作戦行動に移られたい。レイ郡の准将パークスは、揮下の旅団に属する五百の兵をしていつでもリッチモンドに於て貴官に加わせるよう命を受けている。全軍は貴官の指揮下に入る。

総司令官　エル・ダブルユ・ボッグス知事

クラーク将軍閣下」

第二十五章　聖徒、迫害を受ける

（千八百三十八年）

一、クラーク将軍は適格者。　ジョン・B・クラーク将軍はジャクソン郡の住民であった。サムエル・D・ルカス将軍も同じくジャクソン郡出身であった。二人とも、千八百三十三年にモルモン教徒をジャクソン郡から追い出すために力を借した。リルバーン・W・ボッグス知事もまたジャクソン郡の出身であって、モルモン教徒を追い払うときに助力をした一人である。その当時ボッグスは州の副知事であって、秘密のうちにその仕事をやった。この三人はモルモン教徒を不倶戴天の敵として嫌っていた。クラーク将軍は千八百三十三年にはまだ州民軍の幹部将校ではなかったが、ボッグスは前からの経験によって、彼の卑れつな仕事を遂行する人間をよく知っていた。数人の将軍はモルモン教徒が嫌いであったとは言え、ボッグス知事の残忍な命令を執行するため必要な水準に達するまで自分の人格をおとすことのできる者はわずかであった。ボッグス知事から指揮の権を受けたクラークと、クラークを助けたルカスとは「撲滅令」を執行するのに最も適していた二人であった。

二、ハウンスミルにおける大虐殺。　当時その地方には、どんな水準にまでも人格をおとすことのできる多数の下士官と数人の牧師が居た。もしもモルモン教徒をいけにえにしてもよかったなら、人間を虐殺することは彼らにとって一つのレクリエーションにすぎなかった。このような人間が州民兵を率いるウィリヤム・O・ジェニングス大佐であり、今一人はジェニングスの部下であったネヘミヤ・コムストック大尉であった。これらの「勇敢な」人たちは、自分たちと同様の性格をもった軍隊（彼らはすべて州の軍隊から来た者たちであった）を引きつれて、千八百三十三年十月の末、ファーウエストの真東約十二マイルのショール・クリークにあるハウンスミルの聖徒の小部落の近くに集った。そして十月の二十八日（日曜日）にジェニングスはその小さな部落に近づいて平和談判を申しこんだ。そこに居住して自分の稼業にだけ精を出していた教会員たちは、平和とは何事であるか、どうして平和談判をしなくてはならぬのかさっぱりわけがわからなかった。しかしながら、聖徒たちはそのころ北部ミズーリ全体にわたっている事態を承知していたので、喜んでこのような談判に入り、一方何の恐れも感ぜずにその稼業をつずけていた。そのうちに、アシュレー大佐がジェニングス大佐にボッグス知事のモルモン教徒「撲滅会」を伝えたので、ジェニングスとコムストックの二人は約二百四十人に及ぶその兵力を集め、た

だちにハウンスミルに向けて出発した。

千八百三十八年十月二十九日（月曜日）は平和のうちに静かに暮れていった。あくる十月三十日は晴れで快適な小春日よりであった。その日の午後、聖徒たちは毎日の稼業に精を出して男たちは畑や店で働らき、女たちは家庭の仕事に従事し、子供たちはクリークの土手で遊んでいた。ところが突如としてジェニングスとその部下の兵が全速力で殺到して開拓地を馬蹄にかけた。デビド・エヴァンスは彼らが悪意を以て迫って来たのを知って、平和のしるしに両手をあげたが、彼らはかえり見もしなかった。彼らは進軍をつずけて火を放ち始めた。襲われた人々は避け所を求めたり敵の手からのがれようとして逃げ走った。中には家の近くの茂みの中へ逃げこんで敵からのがれた者もあったが、逃げるひまもなく自分の身を守る良いすべもなかったのでかじ屋の工場へ急いで逃げこんだ数人の男と少年たちがあった。ところがその工場をつくっていた丸太と丸太の間に大きなすき間があったので、そとに居た悪魔どもには家の中に居るぎせい者たちがよく見えた。そこで悪魔どもはその工場をとりまき、そのすき間めがけて致命的の効果を与える一斉射撃をくり返した。数人の者は暴徒のうちこむ銃丸の雨の中をかいくぐってとび出し、森の茂みへ逃げこんだ者もあったが、のこりの者はうたれた。メアリ・ステッドウェル嬢は逃げる途中に頭をうたれて気を失なったが、丸太にのめってその下側に倒れたままで居たために命を助かった。破壊の仕事が終ってからしらべてみると、二十発以上の小銃弾が丸太の中にうちこまれていた。しかし、殺人者たちは主として男たちを探していて大ていの女は逃げるに任せていた。

工場の外側でできるだけの死刑の執行を完了すると、悪漢どもは扉を押しあけて彼らの血なまぐさい仕事を片つけた。そこで演じられたおそるべき場面はこの上もない残忍なものであった。その事はミズーリ州「カルドウエル郡史」の中でこの攻撃がやむを得なかったものとして誌してあるが、それはこのような歴史記者が用いることのできる弁解である。それにもかかわらず、これら州民軍の兵たちの行なった悪魔の如き行為は一部分次のように述べられている。

「トマス・マックブライドは独立戦争の老兵であった。彼は負傷して動くことができずに倒れていたが、彼の銃は彼の側にあった。そこへロジャーズという名の民兵がやってきてその銃をよこせと言った。それでマックブライドが「とれ」というと、ロジャーズはその銃をとりあげて見て銃に弾丸がこめてあるのを知るや、弾丸を故意にその老兵の胸へうちこんだ。それから彼は粗製な剣もしくは草刈用の刀でその老兵の体を切り刻んで、ついにぎょっとするほどずたずたにしてしまった。リビングストン郡出身のウイリヤム・レイノルヅという男は、十才になる少年サルディアス・スミスを殺害した。この少年はかじ屋の工場へ逃げこんで、身を守るためにふいごの下へはいこんでいた。その残忍な民兵は工場へ入ってくると、ちぢこまってふるえている少年を見つけ、降参せよとも言わずに彼をめがけて発砲し殺してしまった。この男はその少年がどんなに苦しがって死んだかを悪魔のように喜びながらくわしく話すと、自分がたった十才になる少年を殺したことを『しらみの卵をほっておけばしらみになる、こんな奴を生かしておくとモルモンになるからなあ』と言って、自己の人間とも思えない野蛮な行為を正当化した。」

その時殺された人々の名前は次の通りである。すなわち、トマス・マックブライド、リーヴァイ・N・メリク、エライヤス・ベナ

ー、ジョサイヤ・フラー、ベンジャミン・ルイス、アレキサンダー・キヤメル、ワーレン・スミス、ジョージ・S・リチャーヅ、ウイリヤム・ナピール、オースチン・ハマー、シメオン・コックス、ハイラム・アボット、ジョン・ヨーク、ジョン・リー、ジョン・バイヤース、サルディヤス・スミスおよびチャールス・メリクであるが、この中の数人はほんの子供であった。このほか多くの者は重い傷を負ったが命を全うしてようやく逃れた。その中にアルマ・スミスという少年が居たが、彼は臀部の肉を銃丸でむしり取られながら逃げおおせた。彼は銃丸を受けて倒れたが、おちついて完全に息を殺していたので悪魔どもは彼が死んだものと思っていた。アルマは後に、祈りと信仰によって奇蹟的にいやされた。

殺人者たちはこの恐ろしい仕事を終ると家々や、馬車やテントから略奪し始めたので、品物を取られた寡婦や子供たちは生活の必需品を何一つ持たずに逃げた。悪魔どもは、殺された者が身につけていた物さえはぎとり、悪魔のように喜び叫びながら、またその血なまぐさい行ないを最大の名誉と賞讃を受けるねうちのある勇気のある行為であるかのように誇りながら、彼らのぶんどり品を持ち去った。

三、暴徒である民兵の集合。 ハウンスミルで大虐殺のあった当日、サムエル・D・ルカス将軍は二千の兵を指揮してファーウエストに到着した。このルカス将軍と共にドニファン、パークス、グラハム、ウィルソン等の准将も到着したが、このウィルソンという男はルカスと同じ悪者であった。クラーク将軍は、ボッグス知事の「撲滅令」を受けて約一千人の兵員と共に強行軍をしてチャリトンに着いていた。

その日の夕方、各軍隊がファーウエストに接近したとき、彼らはファーウエスト市から一マイルほど離れたところで二列縦隊をつくった。そして軍使に白旗（休戦のしるし）を持たせて市中へつかわした。この軍使たちはモーレー大尉そのほか二・三の人々と共に面会したが、これらの人々はこのような大軍が集結したのは一体何の意味であるか知りたいと思った。モルモン教徒はそのときまだボッグス知事の「撲滅令」のことを知っていなかったからである。しかし、その軍隊が知事の命を受けてモルモン教徒を根絶やしにしファーウエストの市を焼き払うために来た軍隊であると言われて恐ろしさに戦慄した。この軍使たちはファーウエストに居る三人の住民、すなわちモルモン教徒でないアダム・ライターとモルモン教徒であったが今は信仰を失なっているジョン・クレミンソンとその妻の身柄をひきわたせと要求した。この三人があらわれたとき、軍使は彼らにむかってただちにファーウエストを立ちのいて生命を全うせよ、彼らは保護を受けるにちがいないと言った。州民軍の決意はファーウエストを破壊してその住民を殺すことであった。しかし、三人とも口をそろえて、もしも市民が殺されることになるなら私たちは戻ってきて一しょに殺されると雄々しく言った。そこで軍使の士官たちは彼らの陣地へ戻った。

そこでチャールス・C・リッチがアチソンおよびドニファンの両将軍と面会をするために白旗をもって民軍の陣地へ派遣された。このドニファン将軍は、さきにモルモン教徒にいくらかの同情を示したことのある人であった。リッチは陣地へ向う途中ボガート大尉によって射撃されたが、それにかまわず進行をつずけてドニファン将軍と面会することを許された。しかし、ドニファン将軍は彼にむか

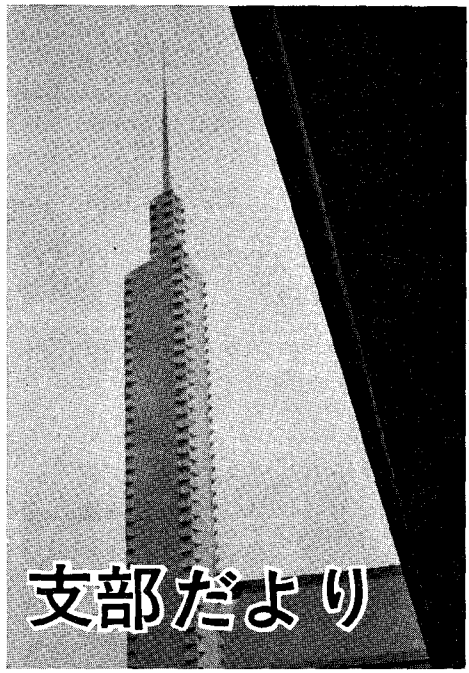
い、アチソン将軍はモルモン教徒に情深くありすぎるというわけで知事の命によって二・三マイル後方に下げられたと言った。そこでリッチはドニファンに嘆願して、何とぞ閣下のおかげで少くとも明朝までファーウエストが攻撃されないようにねがいたいと言った。これに答えてドニファン将軍は、ボッグス知事はすでにモルモン教徒「撲滅令」を発布したが、その命令はまだここに届いていない。それであるから、その命令が届くまでは聖徒に攻撃を加えることはないであろう、しかしながら、コルネリウム・ギリヤムの隊の行動は受けあえない、その隊はたった今到着したばかりでインディヤンのように顔を塗り飾りをつけ、その司令官は自ら「デラウエヤの酋長」と呼んでいると言った。これらの野蛮人どもは、一晩中おそろしいわめき声をあげたり、そのほかの妨害を行なって過した。

チャールス・C・リッチがファーウエストに戻って報告をしたとき、ファーウエストの指揮官ジョージ・M・ヒンクル大佐は暴徒である州兵に今一人軍使を送って聖徒の命乞いをさせた。この軍使は満足な回答を得ずに帰って来て次のように報告をした。すなわち彼は、数人の教会員がかの軍隊の兵士たちにとらえられたが、一人も抗議をすることを許されずにむごたらしく殺されたということを聞いたと言った。

その夜中、聖徒たちは彼らでできるような防禦工事を施こし、五人に一人以下の劣勢であるが、全力を尽して最後まで戦かうというおそろしい決意をして戦いの準備をした。敵方には一時間毎に新手が加わっていた。これらの新手に混じって、ジェニングス大尉とその隊は、ハウンスミルの「大勝利」を得てから新しく加わったのであった。一方、聖徒たちは主なる神におごそかな祈願をこめて心配な一夜を過した。女たちはわずかであるが持ち運びのできるような品物を手に手に持って、機会があったら逃げ出す用意をしていた。その晩のうちに、ライマン・ワイトが少数の兵力とともにアダム・オンダイ・アーマンからやってきて、首尾よくファーウエストへ入った。

四、ファーウエストの包囲。　三十一日の早朝、ヒンクル大佐はもう一人の軍使をドニファン将軍のもとへ派遣した。その軍使は戻ってきて、ボッグス知事の命令はすでに到着しルカスはその命令を実行しようとしているとドニファン将軍は言ったと報告した。そして「もしもルカスがその命令に従がうなら、彼は永遠の罪に落ちるでしょうが、ルカスはやろうと思えば自分の好きなようにやれるのです」と報告した。

ファーウエストを囲んだ軍隊は、何人も市中に出入りすることを許さなかった。市中に出入りしようとする者は射撃された。麦畑は荒らされ、牛馬、羊、豚などは暴徒である州民軍の兵たちによって勝手に屠殺された。



旭川支部

各支部の会員の皆様には、お変りないことと思います。北の旭川支部に大雪のおとずれるはずの十二月に、雪の大変少ないクリスマスキャロルをむかえました。旭川支部はいつもホワイトクリスマスであったので、会員たちは雪の少ないクリスマスキャロルに少々ガッカリしました。しかし六時半からはじまったキャロルは、大変良いものでした。特にある病院では、患者さんたちが自分たちのパーティーを中止して私たちと共に讃美歌を斉唱してくださったことは、とても感激しました。いきようよう？　として教会にもどった時はさすがに身体が冷たくなりましたが、扶助協会のうどんをいただき楽しいキャロルをすごすことができました。

クリスマスは会場を公会堂に移してのパーティーで出席人数九十名程の大？　パーティーになりロック長老のお琴発表、豆音楽家？　福原家の発表があり大いに才能を発揮しておりました。そしていつものようにサンタクロースがあらわれて、ステキなプレゼントをいただき大喜び？　の会員たちでした。

今月のバプテスマ
加門テイ子、白井昭子、木谷正雄
神権昇進者
山田次美（教師）

京都支部

支部長が安芸兄弟から片山兄弟へバトンタッチされましたので、組織が全面的に改められ、次の新組織で御固の一本の柱となるべくガッチリ固って各人の責任を全うしています。

支部長会
支部長　片山富夫
第一副支部長　講崎元清
第二副支部長　岡本亮
書記　高良慎清
記録書記　中村幸二

日曜学校
会長　坂井圭
第一副会長　金丸強
第二副会長　中村晴
書記　的場好子
教師
Bクラス　山口敦子
Cクラス　坂井圭
Eクラス　片山富夫

MIA
YM会長　長井恒彦
第一副会長　鳥居定幸
YW会長　亀谷テル子
第一副会長　長棟富美子
書記　長谷川清子
教師
音楽クラス　鎌田裕子
演説クラス　西野清美

扶助協会
会長　佐々木マキ子
第一副会長　西野清美
第二副会長　片山満枝
書記　山口敦子

教師
神学　大西三重子
文学　大場典子
社会　小山美恵
仕事会　的場好子

神権会
主事　高良慎清
祭司アドバイザー　坂井圭清
教師アドバイザー　講崎元清
教師グループ長　金丸強
執事アドバイザー　佃昌治
執事定員会長　白木照雄
書記　白木照雄

フェローシッピング委員
委員長　岡本亮
副委員長　鎌田裕子
書記　岩崎要子
補助書記　和田佳子

聖徒の道委員
委員長　白木照雄
副委員長　和田佳子

神権昇進者
長老　佃昌治
祭司　岡本亮
教師　中村幸二
執事　金丸強
稲井一雄
長井恒彦
鳥居定幸
白木照雄

名古屋支部

松井伸夫

厳寒！痛いように冷い！思わずオーバーの襟を立てたくなるようですね。各支部の兄弟姉妹北風に負けず頑張っていらっしゃいますか？名古屋支部の兄弟姉妹も益々ハッスルしています。

○神権昇進者

ああ！力強き我等の神権者よ！我々を神の王国に導け！

長老　日坂遜　祭司　大室健児
教師　鈴木義美　岩佐弘
執事　小栗政司　荒木進　長谷川可伸

○フェロウシンプ委員会成立

日坂兄弟姉妹がそろって、委員長、副委員長となられ私達の支部にも、フェローシップ委員会が生れました。益々友情を深めることが出来るでしょう。

委員長　日坂遜　副委員長　日坂知慧子
委員　柳田属夫　長尾慶子　野田さん
土田準子　高木光子　梅村満寿美の各兄弟姉妹

○バプテスマ

又すばらしき兄弟姉妹が、私たちの仲間となられ熱心に教会に集い、あたかも幸福を絵に表したような笑顔は私たちは神様に対して多いなる感謝せざるを得ないのであります。

十一月のバプテスマ
小塚敏枝　中島沙代子　伴藤亜尽
十二月のバプテスマ
藤田実　大野正宣　高木洋子　中沢之雄
森沢厚　矢野信之　林金四郎　小笠原行雄

○支部長会役員移動

山本修兄弟は私たちのお兄さんとして親われ名安屋支部第二副支部長として働いておられましたが地方部評議員へ転入の為大室健児兄弟が新たにその責任になられました。尚支部長会は次の通りです。

支部長　土田勝　第一副支部長　山田勝康
第二副支部長　大室健児　記録書記　白木芽　会計書記　磯村昌孝

MIA役員移動

柳田征史兄弟、小林和子姉妹は多いなる愛を以って実に霊的でしかも楽しいMIAを指導して下さいましたが都合により新しい兄弟姉妹に会長、副会長をしていただくことになりました。MIAの役員は次の通りです。

YMMIA会長　池田茂美　書記　鈴木義美
YWMIA会長　中野清子　第一副会長
上野公子

○日曜学校役員移動

名古屋の日曜学校も木沢修兄弟、坪田忠義兄弟、小崎一男兄弟の御力により一段とレベルが向上し私達も神様のみたまに満たされ安息日を過すことが出来ました。今度新しい兄弟によって、益々私達を救いと栄光をもたらす日曜学校を形成して下さるでしょう。

会長　柳田喬夫　第一副会長　小崎一男
第二副会長　青木圭造

○楽しい会

名のとおりほんとうに楽しい会となりまし

た。日坂光二兄弟による魔法手品によって、おいしいカステラが飛び出し、見ていた兄弟姉妹がそろって食べることが出来ました。家へおみやげに貰って帰ろうとして一箱注文した兄弟もあったとかハッハッ。又支部長会による喜劇、扶助協会の記念撮影ゲーム、宣教師による外科手術のシルエット、実に愉快な一時でした。

○宣教師移動

チャベル長老は東京北支部へヒルトン長老は東京中央支部へ又ブラウン長老は普天間支部へおかわりになりましたのでハウクリ長老ファスター長老がアメリカから又パートン長老は東京南支部からこられました。

白木守記

東京東支部

いよいよ一九六三年最後のおたよりです。今月はクリスマス月だけにどちらの支部でもいそがしくお過しの事と存じます。

十月以来の懸案だった西支部と共同主催のダンスパーティも十六日夜リキスポーツパレスで好評裡に終る事が出来ました。お世話になった西支部の方々、又東支部で責任に当られた土田副支部長には特に感謝の意を誌上をかりて表したいと存じます。最初いろいろとあやぶまれましたが、どうにか赤字が出ない線にこぎつける事が出来た事は、今後この種の計画にあたって色々な意味でよい教訓となりました。

十九日はＭＩＡのクリスマスパーティ。二十一日は御近所の方をおまねきしてのクリスマスの夕べで、スケジュールは順調に進み、夫々、準備に出演に、いそがしい思いをしたのも過ぎて見ればよい思い出です。東支部は今年からはじめて新しい教会堂でこれ等の行事を行うので、計画や準備に今後大きな参考になるような問題が外く、それ等を一つ一つ克服した事に意義を感じて居ります。

二十二日はクリスマスに一番近い安息日なので、日曜学校の各分級、フェローシッピングスクール等、共にクリスマスをテーマとした教課内容で大変勉強になりました、特にこの日当支部にとって嬉しかった事は、一年以上求道者の立場で先頭に立って努力して下さった、清水姉妹がお父様のお許しが下りてバプテスマをお受けになった事です。冷い冬霜の下に耐えた清水姉妹の証詞に、一同感激を新たに致しました。誌上をかりてかさねてお祝い申上げます。これで又東支部は本当に活発な姉妹が一人ふえたわけです。

二十二日の悦びにひきかえて、二十三日は会員一同、堤姉妹の訃報にびっくり致しました。同姉妹の召されるまでの強い信仰は御一家にも強い感銘を与へたものと存じます。又お父様の御好意により、霊前で教会として、お通夜の集会を持つ事が出来ました事は、私共一同感謝に耐えません。御一家の祝福をお祈り申上げます。

二十四日は、会員水入らずのディナーパーティを開きました。計画準備された、北川姉妹他扶助協会の皆様に感謝致します。とても楽しく、又静かむふんい気で、特に参加された求道者の御夫妻の方も感銘を深くなさったようでした。

さしも多かったクリスマスのスケジュールも全部終って、教会堂も外廻りは殆ど完成し、サーチライトを当てたタワーを中心とした夜景は、星空だけをバックにしてまるで夢のようです。この会堂を本当に自分達のものにする為、いよいよ一年のしめくくりを支部長を中心にするべく総決算をして居ります。

来年は、地方部大会の会場にも予定されているとかで、だれかれとなくしっかりしなければと云う空気がみなぎって居ります。二十九日鈴木、村雲、岡三姉妹のバプテスマを無事終了し、いよいよ来年の飛躍への準備です。

（フェローシッピング委員記）

東京東支部

十一月の支部だよりを、お送り致します。早いものでもう一月たってしまいました。前回のたよりにひきつづいて支部の教会堂の建築はますます快調に進められています。十一月二十四日の集会からは窓ガラスが入って、やっと屋内にいると云う感じが出て来ましたガラス一枚にも大きな機能が与へられていることを皆つくづくと感じさせて頂きました。

二十三日は休日を利用して、はたらき会を開き多数男子会員が参加致しました。四十物姉妹他扶助協会の昼食の奉仕も味量共によい出来具合で大変好評でした。壁、天井、間仕切り等も大体終って、内部は床とこまごまし

た処を余すのみとなりました。外も廃材のかたづけも終り塀にヒマララ杉を植えましたから見違えるように落着いて参りました。後は舗道作り、整地等が残って居ります。労働宣教師の古波兄弟、田畑兄弟、武内兄弟も毎日曜の集会に出席して下さいますので、和気あいあいと総てが進行して居ります。只会員一同余暇を発見する事がむずかしく御手伝いする時間の少い事をお詫び申し上げます。

長らくお世話になりましたスミス長老が横浜支部へ、ポキパラ長老が阿倍野支部へ十一月二十三日転勤されました。東支部にこの両宣教師のなした大きな愛と力とは、とうてい評価出来ないもので御座います。これからはファイア・サイドにポキパラ長老のハワイ民謡が開けなくなるのも一寸淋しさを感じます。御両所の御活躍を御祈り致します。後任宣教師はワシントン州タママからゲーリング長老、イリノイ州シカゴからジョンストン長が新任されました。

八月にカリフォルニア州リヴァーサイドに留学された益田姉妹から神殿で死者のバプテスマを受けられたと云うたよりを根岸姉妹が受けとられました。益田姉妹の御多幸を支部員一同御祈り致して居ります。

YMMIA岩永兄弟、YW近藤姉妹がそれぞれ会長となられて、MIAは更に活発な動きを始めました。支部発展の中核となって居りますので皆楽しみにして居ります。

アロン神権定員会の執事定員会も正式に発足し、佐藤竜猪兄弟指導のもとに秋葉兄弟が会長としての責任を逐行して居ります。集会に於ける求導者の受け入れに、会堂の掃除に儀式の準備に組織立った活動が開始されました。

今月は佐々木、中田、原、山口の四兄弟、柴、酒井、宮沢三姉妹が会員となられました。いずれも熱心な兄弟姉妹で特に聖典の研究心が曜盛な方ですので先輩会員にも一層のはげみとなって居ります。

フェローシッピング委員会も十二月一日スクール開設を目標に笛木姉妹、古川兄弟が委員として張り切って準備をなさっています。一度開設したらずっと続けて行かなければいけないので準備は大変ですが、やり甲斐のある仕事の様です。必ずや成功するものと確信して居ります。

来月はクリスマスを控えて各組織が緊密に渡辺支部長の元に一丸となって張切って居ります。では又来月。

（フェローシッピング委員記）

山形支部

十九日クリスマスパーテー

広い会堂も若人や会員のお母さん達や近所の人でいっぱい（いつもこれだけ多くの人々が集まってくれたらいいなあ）

なんといっても今日の最大の呼物は演劇クラス〝夕鶴〟の発表です。山形支部にすてきな演劇クラスが出来ました。そしてその演技力の確かさ、私たち会員は待ってたんです。MIAの活動に活発な演劇クラスの出来るのを三十一日子供たちのクリスマスパーティー支部長バートン長老のサンタのおじさんは大きな袋ならぬ大きな竹かごを背にして押入れの中から表われました。「すてきなプレゼント早くちょうだい。」

二十二日クリスマスのため特別日曜学校

伝道部長のメッセージを聞きクリスマスの正しい意味を学びました。そして天国とは？という疑問に「テストとパチンコのない所」なんていった兄弟がいたっけ。

二十四日キャロリング

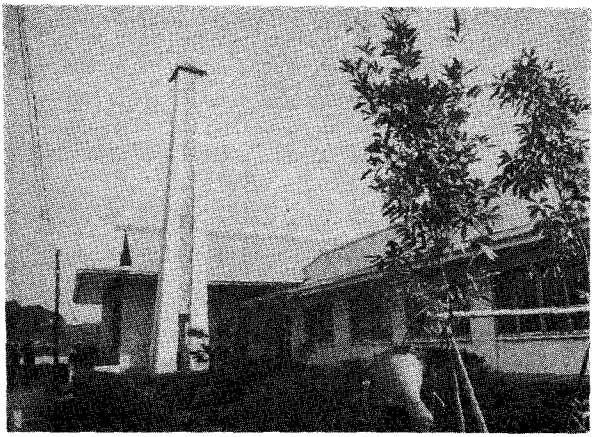
聖るな夜私達はローソクを灯し賛美歌で各病院を訪問しこのすばらしい日を分ち合いました。

二十八日養護施設訪問そしてもちつきパーティー

鈴木吾郎長老マサ姉妹の息の合ったコンビでペッタンペッタンうまいうまいといっているうち手元狂ってマサ姉妹の頭に〝大事なもち〟がくっついてしまいました。みんなにひやかされて上がってしまったんでしょうか、又、長老たちのもちつきも皆さんにぜひ見せなかったわ傑作続出でした。うまくつけたかって？　それは食べた人に聞いてもらわないと分からないムズカシイ疑問です。

今年もこの様に、すばらしい計画を立てそして協力してくれた多くの兄弟姉妹たちに心から感謝します。山形は皆さんの支部から見ればまだまだ小さい存在でしょうが、着実に一歩一歩熱心な神権者によってがっちり基礎と土台を基きつつあります。そしていつも私たち山形支部の会員たちのはげみとなっているのは秋田県湯沢市にいる榎本姉妹です。貴女のいる秋田にも早くモルモン教会が出来たらすばらしいですね。三十八年も良い年であった様に今年もなお良い年を向える事が出来る様祈ってます。

東京北支部



お元気ですか？　今月はまず写真を見てもらいたい。どうだい大分きれいになったろう。前よりは木も植えられたりしてね。新しい教会堂を始めて使ったのは去年の十二月十九日、ＭＩＡの時。ちようどクリスマス・パーティーで、新ＭＩＡ会長の織本兄弟の仕事始めだった。そうそうここで忘れるところだった。十二月の支部大会で支部の役員が全部新しくなり、支部長は細野兄弟。以下支部長会のメンバーは神崎兄弟、森村兄弟、中野兄弟、斉藤兄弟、別に支部の役員を知らせたところでどうということないので、これ以上書かないけれど、支部長会も大分若がえった。この効力が早速現われてね、物事が非常にスピーディーに進んで、このエネルギッシュな状能が続けば、北支部も、もっと前進すると思う。若がえったといえば、ＭＩＡの方は若がえり過ぎたくらいだ。まず会長さんが織本兄弟ときているだろう。知ってのとおり、口だけは達者な高校生、副会長まで井上兄弟という高校二年生、全く若さがいっぱいというところさ。口だけは達者というけれど、どうも北支部のＭＩＡの会長の伝統らしいよ。そういう点は。（参考のために最近の歴代会長をあげると、前会長は神崎武二郎兄弟、元会長森村兄弟、その前に神崎良太郎兄弟――どうです、わかるだろう、こういう風なんだから――）

十二月二十二日は日曜日に始めて、新しい教会堂を使かった。もう武蔵野ドレメにはいけない思うと、ちょっとさびしい感じもした暖房がなくて寒かったけど、みんな喜こびにあふれた顔をしていたよ。

十二月二十四日は近所の人へ教会堂の披露も兼ねて、支部長会主催のクリスマス・パーティー、まあ、成功した方だろうな。ちょっと子供が多すぎたけれど。パーティーのプログラムの中で印象に残ったのは勤労奉仕宣教師の紹介だった。あの日は高橋兄弟の司会だったけど（無責任的司会ぶりだったけど、案外と評判よかったらしいよ）彼が一人一人宣教師の名を呼ぶと、すくっと（「のっそりと」もあった）立上る。司会者が各人の特徴、性格などを紹介するというわけ。一人立っごとにワァーと拍手がわくんだ。それも会員でない人の方が多い会場で。司会の「この建物はこれらの人々の手で全部作った」という説明で、驚きの目で見はっていたのは忘れられないシーンだった。それともう一つ。（これは忘れてもいいんだけど、忘れようとしても忘られない）演劇があった。〝次郎かがし〟というので、出演メンバーが、酒井兄弟、岡安姉妹、森村兄弟、井上兄弟、斉藤兄弟という調子で、特に森さんは、始めての演劇にしては予想外の出来だって評判だったよ。みんなうまかった。

一月に入って、教会堂の使用回数がふえるごとに、段々馴れてはきたけれど、まだ殺風景な感じがするね。とにかく集会を開く度になにか必要なものが出てくるんだから。それに掃除が大変なんだ。十五日の成人の日は、掃除パーティーで三十人位集まったろうか。

なにわともあれ、これから一・二カ月、落着くまでは大変だと思うよ。そしてその大変さが、我々の進歩への一つの条件さ。

それから、三月頃になったら、教会堂へ来るといい。江古田二丁目の停留所は、江原中野通りとなったから、友達を北支部へ紹介する時、そのようにいっておいて下さい。

二月は一番寒いからカゼに気をつけて。じゃ又来月。

伝道本部だより

バプテスマ　一九六三年十月

阿倍野
赤尾昭和
青野富巳子
浅田多喜子
朴　泰継
福田英二
広田真知子
堀　俊夫
石井弘美
岩島智子
北川博継
松岡雄二
大西敏子
武中安子
山千代郁子
吉田マチ子
山本ヨシ子
湯浅敏子

旭川
加門テイ子
白井昭子
福岡
伊奈淳子
松崎和則
大田京子
群馬
上田初美
簗町秀子
山内康子
広島
伊藤衣子
岩田順子
佐本敏幸
森川哲朗
立野忠明
竹田克子
山田喜文

甲府
萩原幸一
斎藤誠
山田保男
松本
小宮山敬子
松森美智子
須山睦子
山本美枝子
新潟
片桐瑞子
加藤美枝子
西の宮
平宇唯一
木村洋子
山本美津子
松原和子
宮本律子

森川嘉男
新美千美子
清水良祐
岡町
石原栄二
岩佐環
佐野一英
渡壁誠
祐伯契
野田昭恵
岡山
近藤忠司
水之繁
森友造
西山俊明
小樽
青山篤三
藤井恵子
中山幸子
西山幸子
薬師恭一
三の宮
藤永重実
藤崎尚

上辺正利
藤田利久
葛西征二
河本元福
木谷敬子
松本迪子
長田充晴
土崎重治
山田富一郎
小倉邦利
大川博
竹口誠二
和又義満
吉田岳子
札幌
清水伸哉
板倉紀子
鎌田祐子
木下喜弘
大西進
山下文彦
名取豊
仙台
田浦つゆみ
田村栄子
島田玉栄
坪内英昭

井川洋
佐藤隆保
佐藤文子
富田美代子
東京中央
新井槍吉
若井佳子
宮沢文代
中田喜之
酒井あけみ
佐々木英行
柴鈴代
山口克介
東京南
藤村逸郎
原則雄
出原浩平
鏡美智子
呉橋一誠
坂口武
島田玉栄

横田和助
八木桂子
秋葉時子
山形
上条栄子
菊地時夫
小林年子
岡崎薫
斎藤勇
那覇
外間敬子
川満信夫
金城節子

神権

阿倍野
イズミタニ　イワオ（長）
オグラ　クニヤス（〃）
ツノヤマ　テルオ（〃）

旭川
ヤマダ　ツギミ（教）
キザキ　マサミ（長）

福岡
ヤノ　ノブユキ（長）
イシカワ　オサム（長）

群馬
イシムラ　ヤスナリ（執）
フジイ　シゲオ（執）

広島
コガ　ヒサヨシ（長）
ニイ　ヒデハル（〃）

金沢
エンドウ　ダイ（長）
イシシロ　マサノブ（〃）
タナカ　トオル（〃）

京都
ツクダ　ショウジ（長）

松本
ツチヤ　タダシ（祭）

名古屋
カイヤ　トモジ（執）
オガワ　ヒデアキ（〃）
オムロ　ケンジ（教）
ヒサカ　コズル（長）

新潟
サカイ・ジュンイチ（執）

西の宮
タカジョウ　タクヤ（長）

岡町
イケ　ショウジ（長）
クワタ　シノブ（〃）
マルカワ　クニオ（〃）
トネ　マサイチ（〃）
マツモト　カツアキ（教）

岡山
スヤマ　トシハル（教）

小樽
クシオカ　シンイチ（長）
ヤマダ　ミツタカ（長）
イケハタ　イサオ（祭）
タナカ　ミノスケ（執）
タマキ　ケンゾウ（執）

三の宮
ニシキ　タカハル（長）

札幌
アカマ　ヒロシ（教）
マニエ　カズオ（〃）
カワグチ　レツオ（〃）
タカツキ　ハルヨシ（〃）

東京中央
コマツバラ　クニオミ（長）
オハラ　ミツナガ（〃）
タカハシ　マサシ（〃）
タカイ　ジュンイチ（〃）
タカママ　シユウジ（〃）
オチアイ　カツミ（執）
ヤマダ　ヨシオ（執）

東京東
フルカワ　ヨシヒロ（執）
イシカワ　ヤスオ（教）
イワナガ　マサハル（〃）
キグナ　シゲオ（〃）
ミヤギ　ハルオ（〃）

東京西
ミウラ　タダシ（長）
ウチヤマ　ハルユキ（〃）

柳井
クサカ　アキラ（長）

横浜
イシカワ　タカシ（教）
クド　カツオ（教）

那覇
ヒガ　エイキチ（執）
ヨシムラ　タダシ（祭）
ニシメ　タモツ（教）

「奇しきみわざ」出版祝賀会

御国建設に励んでおられる聖徒には、希望にあふれた一九六四年を迎えられたことでしょう。その新春早々五日、日曜学校翻訳委員並びに「奇しきみわざ」の校正に助力をなさった兄弟姉妹が東京中央支部の一室に集り、祝賀会を開きました。都合があって、全員が参加出来ませんでしたが、二年間にわたって「上・下巻」の翻訳および出版に寄与なさった人々の苦労話、テキストになるまで、またこの書物の問題点など、様々な事柄について委員達の話合いが活潑になされました。この速記を、聖徒の道、誌上に記載致しますので聖徒において「奇しきみわざ」について幾らかでも理解していただき、翻訳者等の苦労を思い、充分な勉強の助けにしていただきたいと思います。

出席者、A、上野道男、B、児玉栄治、C、神崎良太郎、D、小林幸司、E、向井良子

A　「下巻」は「上巻」に比べるとミスプリントが少いですね。

B　全く同感！　他のテキストからみると、この本は校正が丁寧だと思います。

C　日曜学校翻訳委員の手で翻訳をして、そして書物にまとめたという成果は大きいですね。

A　分担して翻訳したということはいいですね。

D　割当てられた箇処の原稿は部厚いもので沢山あったが、いざ活字になってみたらほんのわずかな頁数になってしまうものですね。

C　「下巻」の方が訳しにくかった。少し堅い文章になってしまった。ある項目を訳すために、他の資料（信仰箇条の研究）を読み直してみたり、またある時は、他の宗派の牧師を尋ねたこともあった。

D　「完成への道」「信仰箇条の研究」などとは、表現の仕方が違っているが……

A　「奇しきみわざ」はあくまで日曜学校のテキストとして用いられるために、漢字を少なくし、わかり易さ、読み易さということに重点をおいたためで、文体はすべて私のに統一させました。

A　ところで詩の翻訳はいかがでしたか？

C　母に頼んだり、姉妹たちに尋ねてみたができないと断られた。

A　詩の飜訳というのはありえない。すなわち原文の通り訳したのでは詩にならないからで、「奇しきみわざ」の大部分の詩は原文の意をくんで私が創作しました。

C　しかし英語の力が強いだけでは、福音の翻訳はできない。用語、単語の翻訳は勝手にやれない。福音の知識があれば、訳は簡易だ。

D　言葉の定義と使い方が、同じ語でも解釈の異っているものがある。

A　とにかく飜訳は英語の知識よりも日本語の知識が大切であることがわかりました。原文を読んでその意味が理解できても、その適確な日本語が考え出せなくて苦労しました。小説なんかよく読んでいる人はその点、楽だってでしょうね。

A　原稿の回収に手間取った。予定が七月ま

でであったが、一番早く提出されたのが十月の初めであった。

C　各翻者共、原稿の締切りには気にしていたことでしょう。

A　用語の説明、訳語の指示及び、用語の統一を前もって連絡しておけばよかった。

B　原語を日本語に書き変えるだけではなく、何度も校正を重ね、印刷に付され、装訂がなされて初めて書物となって発刊されるわけだ。

C　校正より翻訳の方が楽なのではないか？

B　短期間で印刷にこぎつけた。校正を手伝った方々の努力が察せられます。

A　校正の際、数多くの助言をいただいた佐藤竜猪兄弟に大変感謝しております。

D　合本の計画はありますか？　あったらその時期は何年頃ですか？

A　二～三年後になりますが、その時は新訂版として、改訂をしたいですね。読者の意見を聞きましょう。

C　立派な書物が出版されたのですから、聖徒に熟読を願い、福音を学ぶ助けにしてもらいたいものです。

D　読者は翻訳者の苦労を察して欲しいものです。翻訳の苦労を味ってみないと、それはわからないかもしれませんね。

B　翻訳だけでなく、とにかく書物が出版されるまでに携る人々の苦労は大変なものですよ。

A　「奇しきみわざ」を出版するまでに関係した各人は、更に強い証を持ち得たことと思います。

C　次の翻訳はどうですか？

A　今年は、翻訳の予定はありません。

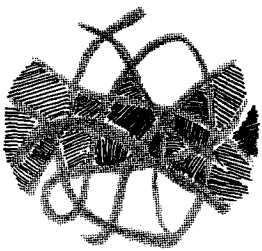
C　今年も何かお手伝いをしたいですね。

A　書物が出版された時は何とも言えない嬉しさでした。皆さんに心からお礼を申し上げます。

B　出版された時は、ようやくと責任を果したという安心さと嬉しさを感じました。

A　では、本当にありがとうございました。

（企画伝道部日曜学校会長会）



出席者上段右から

児玉栄治　五十嵐（新潟）

小林幸司　上野道男

神崎良太郎　向井良子

読者だより

串岡信一

（小樽支部）

私にある日親友である増田君は（その日はちょうど日曜日）「笑うなよ。誰にも言うなよ」と前おきされて次の様に話してくれた。「僕教会へ行って来たんだ、おかしいか」と。私はそくざに「いや何もおかしくない」と答えて言った。それから数日後彼につれられて教会に来る事になった。今から思うとその日はちょうどMIAのある木曜日であった。私はその日生まれて初めて教会という所に来たのである。でも私はその時以前にもこの教会に来ようと思ただけで残念ながら来る事が出来なかった。なぜならば町を歩いていてもらった〝ちらし〟を見ないでポケットにしまってしまうのが常だったからだ。しかし親友によりこの教会に導びかれたのであった。そして基礎的な福音を聞いて見ないかと非専任宣教師の盛姉妹より言われたので家庭集会を彼女と物江姉妹の二人により受ける事になった。はじめはあまりきょう味がなかったがレッスンが進むにつれてだんだんと面白くなって来た。しかし四回目のレッスンの時一寸つまずいた。第四課の智恵の言葉の所で酒、タバコ、コーヒー等を飲んではいけないという事である。たが私はすこしずつ神の存在を知る様になったのでその事をやめる事が出来た。おかげで以前よりもまして健康になり又、甘党になった。と言う事を神に感謝すると共に私の為に家庭集会を開いて下さった、盛姉妹と物江姉妹にそして増田兄弟にも心から感謝しています。今回はあまり余白がないのでこの辺でペンを置きますが再びここに書く機会があったならばこの続きの様なものを書きたく思います。この事すべてをイエス・キリスト様の御名により綴りました。アーメン。

山田武雄

永遠に進歩することこそ末日聖徒の信仰の根本原則である。農夫が良質の品種の種子を播き、それに適切に肥料を施すならば、素晴しい果実が実るに違いない。然しこれには肥沃な土質を必要とする。末日聖徒の信仰がいかにすばらしいものであろうときく耳なき者にとっては「猫に小判」かもしれない。我等はきく耳をもつし、きく心のある者である。然し折角聞いても悟らなければこれも無価値に等しい。サタンはいつも我等の身辺に漂うている。そして我等の心より信仰を奪おうとする。暫くは一時の感激で信仰を持つが、生活に根を下さぬ浮草の如きものならば、現世の試煉に敗れて、教えから退き、而して教会を離るることとなる。信仰生活は茨の道なのである。現世の労苦に負けてはならん。財宝に眩惑されてはならん。快楽に麻痺されてはならん。永遠の真実の自由はここを乗り越えたものの様に与えられるものである。

豊かなぶどうの一粒一粒の実は農夫の根気強い努力があってこそであろう。そのように末日聖徒個々の人格の向上発展は豊かにその実を結ぶよう根気強く不断に探究の道を歩まねばならない。そのためには我々は日常教会の内外に在って多くの経験をするよう幅広い生活を営むべきだ。人生は生きている。創造されている。前進している。我々は信念だけでは目標に到達出来ない。行動を起す必要が生ずる。

末日聖徒の信条とする神は体を持ち、考え、意志を働かせ、意図し、そして人類にその御意を語ることのできるものです。神は体と感情と感覚のある御方である。神は力ではない。神は理想ではない神は偶像ではない。神は原則ではない。神はそのように抽象的なものではない。無形なものでもない。

従って神と人類との間は常に連絡出来る。それ故人類は尊厳であり、価値があり、自由があるのである。

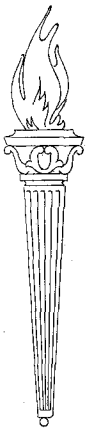
教えをうけるための必要条件

先生より教えをうけるために、生徒は教えをうけたいと望み又求めねばならない。

生徒が習いたいという望みもたず又何ら考えようとする気持ももっていないならば先生から何も習うことができない。生徒はある程度の望みと用意と心に強い気持がないならば先生より学ぶことはできないと私は信じている。邪しまな心をもち、邪しまな行いをしている生徒に私は近づかないし又そのような生徒と共に交らない。あなたがたが謙遜で、誠実で、心が清く、真面目に私の心を知るために求め行うならば、私はその人の望みを聞き届け、又その人に答える。

刻苦勉励しなさい。徳を積みなさい。知識を確かなものにしなさい。節制のある生活をしなさい。忍耐の心を持って生活しなさい。目上を敬い、つつしみ深くしなさい。友人や他人を愛しなさい。

（実の兄第のように）



系図の道しるべ

親族・親等の関係早わかり

◇親族◇

親族の範囲

（民法七二五条）1　六親等内の血族
2　配偶者
3　三親等内の姻族

血族……血縁関係のある自然血族と養父子のような法定血族とがある。

姻族……配偶者の血族と血族の配偶者とのすべてをいう。

直系……親と子、祖父母と孫のように祖先から直下する血族のこと。

傍系……兄弟姉妹、従兄弟姉妹のように同じ始祖から分れた血族のこと。

尊族……自分より目上の血族姻族で、自分や配偶者の父母、祖父母など

卑族……自分より目下の血族、姻族で子孫甥、姪などをさす。

（注）同一世代では尊卑はありません。

◇親等◇

親等の数え方（民法七二六条）

現在は世数親等制で血縁の遠近により世数を数えます。直系は世数を数え、傍係は共同始祖まで世数と、そこからその親族迄の世数とを合計します。

（注）配偶者は互に親等がありません。

委員の手引き

個人ティーチングについて

この個人ティーチングは全会員の系図探求状態を調査し、**誰れにどんな方法で助力すべきか**を明瞭にすることにあります。

この記入用紙を委員は持って集会のあい間に問答してチエックします。

個人ティーチング

	氏　　名	日付	問			答		次回の見込み	備　考
1									
2									
3									

説　明

氏名　会員名を記す。**日付**　日付チエックした日付

問答　この記入方法は三つに別れています。（○，×式）
①「自分の系図（家系）を調べたことがありますか。」
②「謄本をお持ちですか。」
③「系図のために郷里を訪れましたか。」
①，②が×（No）の人は③を質問する必要がないと思います。

次回の見込　系図を強いることによってなお系図嫌いをつくってしまいますので，そのような場合はチエックした方が良いです。見込みがあれば○　なければ×。

教師養成レッスン

良く教え、指導する為の六つの基本的標準

第六課　教師を養成すること

この要約した学習課程を通じて我々の焦点は、何時も生徒の上に結ばれていた。彼の性質や教える際の目的、目標に達し得る方法を考えてきた。エドウィン・マークハム作の次の詩の一節は私の云いたい点を能く表わしている。

心の企図を知るまでは
眼は暗黒に閉ざされぬ
ひとくわだては
ちりとなりて散り去りぬ
あゝ、悪しきたくみのなす業は
おのがよき身をたつまでは
思いに思いをめぐらすも
最早、策するすべもなし

この詩の一片はまさに教師、自身になぞることが出来る。教師は生徒達の為ばかりではなく、自分自身の為に一生懸命努力しなければならない。教師は、芸術家のように、自分の仕事を鏡としなさい。彼の性格や個性は特に福音を教えたり、道徳教育の際には大切である。今、あなた方や私の為に、我々の現在の成長過程を評価する手助けとなる幾つかの質問と話をしてみよう。

私は生徒ですか

私の読書の習慣はどんなものですか。過去六ケ月間にどんな本を読んだでしょうか。私は福音を規則正しく、或いは系統的に勉強したでしょうか。それとも単に話を準備したり、レッスンを復習しただけだろうか。聖典のうちのどれが親しみ易く、どの部分が未知であるか。私の書棚の状態はどうなっているだろうか。私の予算の何パーセントが肉体を飾る費用に比較して霊を養うのに使われているか。どこの教会の本を持っているか。そのうち私はどれを読み、どの書物が私の生活の一部となったのだろうか。私の物の考え方をかたち創ってくれた書物はどれだろうか。

私はどのくらい有意義な講演会や素晴しい演奏会、良い催し物を聞きにいくだろうか。私のレクリエーションとは何だろうか。私の心はそのうちのどれで涵養されるのだろうか。私は友人達とどんな話をするのだろう

か。此の世で一般に話されているものに三種あると云われている。

1　事物（例、天候、食べ物、衣服）

2　人間（例、ゴシップ）

3　考え

考えこそ会話の真の肉であり、伝達の理想的な媒介なのである。精神はそれによってますます成長していく。他の人達との会話の中で彼等はどんな役を演じているだろうか。私は何時、熟慮するのだろうか。一人だけになって、祈り、考え、自分自身に語り掛ける為に、大好きな静かな場所でこっそり反省する時間を規則正しくもうけているだろうか。それとも、多くの現代っ子のように、自分自身を見失ってしまうような活動の渦に巻き込まれているだろうか。

私は読み、見、観察する自由を保ち続けているだろうか。私は教えたり、考えたりするのに必要な材料として、いろいろのカタログやファイル形式の教材を持っているだろうか。

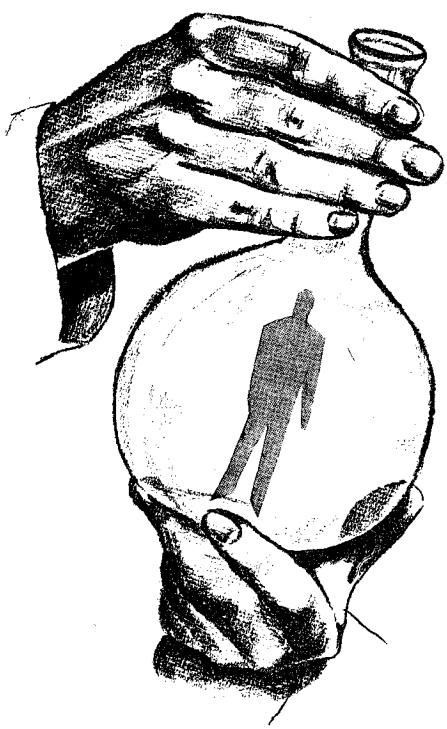
私の価値は何だろうか

私の宝は何であろうか。「汝のたからのある所には、汝の心もあるべし。（マタイ伝6章21節）「この故に我なんじらに告ぐ、何を食らい、何を飲まんと生命のことを思い煩い、何を着んと身体のことを思い煩うな。生命は糧に勝り、身体は衣に勝るならずや。……まず神の国と神の義とを求めよ。」（マタイ伝6章）

私の人生はつまらない、うわべだけのうちに終ってしまうのだろうか。他の如何なるものよりも安楽と安全を求め望むのだろうか。

私もまた「溝を堀る力を得る為の食物を得る為に溝を堀る仕事をする」ような踏み車の上を歩むのだろうか。この考えは一般の労働に対する侮辱どころか、栄誉ある報酬の多いものである。然し「ひとはパンのみに生きるにあらず、金のみであらゆる物は買えず」ことを肝に銘じておこう。

私の人生に於ける終着は何であろうか。目



的に到着し得るだろうか。私の戒律と標準は何で、私にはっきりと解っているだろうか。私は仕事に公平であり、人々に憐れみを施しているだろうか。私の根本の価値と行いは末日聖徒の信仰を深め育てていくのと一致しているだろうか。（来月号に続く）

（佐藤襄二訳）

ＭＩＡの標準

ＭＩＡの標準は、強制を持って行われるものではないが、正しいＭＩＡの会員ならば、守って頂きたいものである。また、誰でもが守り得るやさしいものであって、決して、めんどうであったり、むづかしいものではない。そして、ＭＩＡ会員にのぞまれている、それらの標準の一つ一つを良く考えてみると真に妥当な事柄ばかりであると思う。

最近、東京には二つの新しい教会堂が建ちその目にしみる様な白い壁が、そして、きれいにみがかれた椅子の一つ一つが、いつまでも美しくある様にと誰もが願っている。

「教会堂の美しさは外見の美しさのみではない、そこに集う人々の心の美しさがあってこそいつまでも、白い壁を保ち得るのだ。と多くの人達が説教をした。或る支部にあっては礼拝堂内の雑談を禁じ、社交場とならない様に集会の十五分前にならないとドアのカギは開けられない様にもなった。東京のこれらの新しい教会堂のみでなく、各支部のすべての人々が、主のために集う人々が、いかに美しい会を集うかと言うことに思いをめぐらしていることであろう。

ＭＩＡに集う若人の間にあっても、しかるべきではないだろうか。そこでＭＩＡの標準についても、いまひとたび担い起こして頂けないだろうか。

ＭＩＡの標準と言うものは、具体的に且つ細かいことにわたっても述べられている。しかし、まず、個人と集団との二つの立場から記されている一項を皆さんと一緒に読んでみよう。

ＭＩＡの標準（個人として）

(1)神権を尊ぶこと。言葉と行いとにより、教会の指導者を支持すること。

(2)知恵の言葉を守ること。すべて悪い行いを避け、聖なる教会に常に出席すること

(3)什分の一と断食費を納めること。

(4)聖餐式及びその他必要とされる集会に出席すること。自分の属する支部の堅実な会員たること。

(5)安息日を、礼拝日、休息の日及び福音をもっと深く学ぶ日として覚えること。

(6)他の人の悪口を言わぬこと。うわさをせぬこと。

(7)自己の正しい生活と言葉とにより、謙遜清潔及び純潔の重要性を教えること。

(8)謙遜にして、且つ適切な衣服を着用すること。神殿に行ったことのある者は、そこでなした神との聖約を尊ぶこと。

ＭＩＡの標準（団体として）

(1)あらゆるすべての事に於て卓越し、優秀なることは、ＭＩＡの集会を特徴ずける

(2)教会に関するあらゆる事柄は、すべて祈りによって始められ、祈りによって閉じられるべきである。

(3)いつ、どこに於ても、秩序と良き行いが必要である。

(4)出演者は、たとえ素人であっても、高い水準にあるものをのぞむべきである。

(5)役員はすべて集団で行う。プログラム、祭、演劇、音楽などの出しものを、もう一度調査し、言葉、動作、衣裳などに於て、人に不快な感じを与えるものがないかどうか、確かめてみる。

(6)如何なる活動も、参加者を困らせたり、また、馬鹿々々しいという様な考を持た

せるものであってはならない。

(7)ＭＩＡの各標準を遵守する者のみ集会場に入ることを許可されるべきである。

(8)集会場の総体的な雰囲気や状態は常に、注意され、必要とされる時に改良されるべきである。（健康上の面からも）

さて皆さんがこれらのＭＩＡの標準を守って、まず「ＭＩＡ」と言う集会が開かれるべきであろう。貴方の支部のＭＩＡは、貴方が創りあげるのである。今日貴方がＭＩＡの集会に行く時に、もう一度、ＭＩＡの標準について想いおこしてみて下さい。（栄子記）

ＭＩＡ書記の皆様

一年で最も寒い時節がやって来ました。集会の出席人数も少なく、記録もさみしい時ではありませんか？ 常に貴方によって出された記録を会長会に発表し、より成績をよくするよう検討して下さい。

発表事項

一、二月のプログラムは第三週迄定例集会ですが四週目は一般活動で年令別に別れるようになっています。詳細は、欄外か他の用紙に記録して下さい。又各地方部に於てスキー、スケートなどの特別な企画がなされていると思いますがそれも記録して下さい。

一、大変レポートの作成方法もよくなって来ましたが記録のおくれた支部はほとんど新しく変ったので分らないという理由です。もし貴方が他の仕事に召された時は、新しく召された書記によく事務の取次をして下さい。

一、ヤング・マリーのクラスについて伝道部として再度検討中ですのでクラスを開いているように記録されている支部がありますが開いているか否か、又何名出席しているか（すべてのクラスを通して）できるだけ確実に知らせて下さい。

又結婚を控えている人又、出席する可能性のある人もそのように記して、二月のレポートと共に提出して下さい。

一、ＹＷＭＩＡ登録会員の**氏名、年令、生年月日**がまだ一部の支部だけしか提出されていませんので至急提出して下さい。

一、カレンダーが残っておりますので必要な支部は一部三十五円を同封し申込み下さい。尚送料はいりません。

○書記の方の住所氏名を別紙に記入してレポートと共に御送り下さい。（塚田記）

十一月分レポート締切日に遅れた支部

東京西・横浜・名古屋・柳井・京都・甲府仙台・岡町以上八支部です。

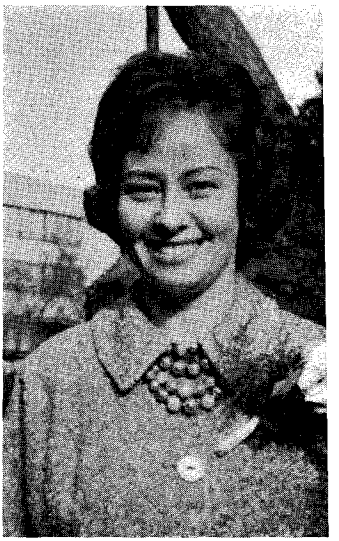
（今月は郵便の遅配の為と思われる支部もあります。気をつけて下さい）

締切日迄にレポートを提出しなかった支部名

12月　室蘭支部・札幌支部・群馬支部・仙台支部・東京東支部・東京西支部・横浜支部・阿倍野支部・広島支部・京都支部・名古屋支部・岡山支部・三ノ宮支部・柳井支部・普天間支部

現在、此の北部極東伝道部には29の支部があります。それらの29の支部は、それぞれＭＩＡを持っておりますので本伝道部のＭＩＡ表は29となります。

当然のことながら提出されなければならないレポート数は29ですが、残念なことながら12月は14の支部が、期日迄に提出したに過ぎませんでした。全体の約50％で統計をとることは、真に遺憾です。どうぞ、ＭＩＡ書記の皆様頑張って貴方の仕事に精出して下さい。大変忙がしい仕事ですので、一人でやりきれない時は書記の補助を支部長に申し出て下さい。いつも本当に御苦労様ですが、今月のレポートも遅れない様に。



伝道部扶助協会長メッセージ（ミッション・マザー）

ペギー・ヒュイシ・アンダーセン姉妹

新らしい年を迎えてまた生活を始めることができるのをほんとうに感謝して居ります。そして、私はことしもまた日本と沖縄で日を送ることになるのをとくに感謝して居ります。私たちが教会のたいせつなプログラムについて一しょにもっと学ぶときに、また主なる神さまがその子らにお与えになった計画――イエス・キリストの福音をもっと一心に履み行なおうとするときに成就のできることを、私は大きな期待で予想して待ち受けて居ります。私は教会の婦人たちの役割についてずっと夢中になって考えて居りますが、つい先だって千九百六十三年十一月発行の扶助協会誌に、扶助協会中央評議会の第一副会長マリアンヌ・C・シャープ姉妹の論説が出て居りました。それで、私はそれをそっくりちょうだいして今月の私のメッセージにしたいと思います。そして私は、この論説に出ている考えがみんな主なる神さまのみことばであることをたしかに知って居りますとまじめにあかししたいと思います。私はあなたがた一人一人がみなこの記事の中に大体を述べてある「婦人のための偉大な計画」を本当に理解なさるように祈ります。私たちすでに結婚して居ります者たちのために、私たちの役割ははっきりきまって居ります。また未婚の人たちのためには、機会があったときにこれらの二つの役割を果すことができるようにそなえをすることが、その人たちのなさねばならぬことになります。女性はこの記事の中に示している役割を果すためにこの地球の上に置かれたのであります。

「感謝を神に捧げん

感謝を神に捧げん　予言者のみちびき
末日に福音を　光とたまいぬ

（讃美歌　第百七十）

「末日聖徒である婦人たちは自分たちがイエス・キリストの教会の会員であって、一人の予言者に導びかれていることを、ほかのすべての人々にもまして有難いと思うことができます。また各自の夫が神権をもって居て、その家族のために神権の権能を行使することを感謝することができます。

今日、変化している世界によって、また特に今の世界の婦人の役割が変りつつあることによって大さわぎがされています。婦人自ら達成する必要のある新しい地位と臨機応変の才能とについて口まめに語られています。しかし、末日聖徒にとってこれらの言説にはきべんがつめこまれています。現代文明の求めているものが一層の教育と永年の訓練を必要としていることは本当でありますが、人間の

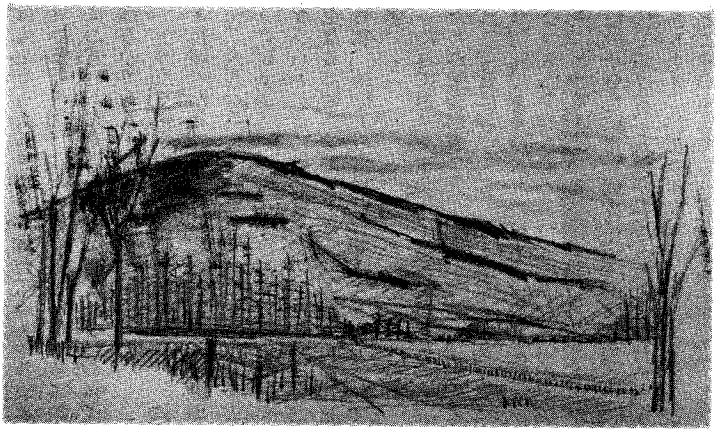
心の根本的な性質と特性とは昔も今も変って居りません。主なる神は人をかたより見たもう御方ではありませんから、神の子らはどの「神権の時代」においても、彼らの生きていたそのとくべつな時代にたまわった真理の光にてらし、各自の考えと行いによってさばかれるのであります。

まったく偉大で貴いこの「神権の時代」には、満ち充ちている光と真理のために教会員たちのさばかれる標準があります。宇宙旅行や、人間が月やその他の天体に到達するかどうかなどの憶測は面白いでしょうが、現在人間のもっている知識ではおそらくだれ一人アブラハムが天についてもっていた知識に及ばないでしょう。それは主なる神御自身がアブラハムに御手のわざをお見せになったからであり、地球上の生活の法則は今も昔も変っていないからであります。

それでありますから、経済上の圧迫やその他の圧迫によって婦人たちが労働市場に入って行かなければならない、または招き入れられる今日においても、婦人の為すべき仕事は変って居りません。末日聖徒である婦人たちは予言者の指導によって、自分たちの根本的な役割は少しも変っていないことを知って居ります。その役割は、夫にとっては妻であり助け手であり、また自分の霊の父である神の霊の子らを此世で肉体に宿らせて、主なる神の保導と戒めのうちに育てあげる、人間の親であるという昔から変らない永遠なる役割であります。始祖のイヴがアベルとカインとセツを産んで以来変ったところがあるでしょうか。イヴがもっていなかったどのような心（または霊）の性質が今日の女性につけ加えられているでしょうか。妻としての母としての女性の役割も、また女性のもっている性質も英知も、昔から変っては居りません。

イヴはその息子のカインの心の中にある悪をひじょうに悲しいと思う経験をしましたが、また今日イヴの子孫である娘たちと同じように主なる神を信仰し依り頼む自由をもっていました。私たちは、偉大なる母であるイヴが光である真理をカインに教えることを怠っていたと信ずることはできません。カインの悪事についてイヴに一点の非難するところもないことは、今日の母親についても同じことが言えるでしょう。

今日の世界において、昔と今とちがっているところは表面だけであります。女性そのものは今も昔も同じであります。女性の根本的な美徳をうちこわすいろいろな誘惑には、神がお与えになった妻としてのまた母としての仕事から女性をおびき出そうとするサタンがいろいろな装いをさせたり、いろいろの興味をひかせたりしています。昔も今も信仰、悔改め、祈り、忠実、模範、福音が真実であることを知って実践することなどの美徳は同じように必要であります。「女性にその資質を充分に発揮させる」ためには何の新規なことも必要ではありません。洗濯機、乾燥機、高速計算機、服飾品、自動車、ヘリコプター、飛行機、タイプライター、高度の教育、宇宙旅行などはみな女性をおとし入れようとする可能性をさし出しています。しかし、女性のもっている自由意志には変りがありません。主なる神は、その子らに才能を発達させよと教えておいでになりますから、女性はその中にもっている力を極度に発展させてもよいのであります。それでも、女性は妻であり母である自分の根本的の役割をしっかりもって居ります。どんなことをしようと、機会がおとずれるままに女性が自分の資質を充分に伸ばすのはよいけれども、妻であり母である役割を忘れてよいということはありません。夫にとって助け手であり子供らにとって養育者であれという、主なる神がイヴにお与えになった二つの根本的な戒めに従順であることによって喜びと昇栄とが与えられるのであります」。



母親ルシイ・マック・スミスの語る

ジョセフ・スミスの生涯（十五）

第二十八章　ハリス夫人ジョセフを訴える、一方的の審理

八月の始めころ、ジョセフが成功しているという知らせを持ってサムエルが家へ帰ってきました。

註。サムエルがハーモニーから自宅へ戻ってきた時について、スミス夫人はここでまちがいをしているらしい。ジョセフとオリヴァはデビッド・ホイットマーと一しょに千八百二十九年五月の終りか六月の始めころニューヨーク州ウォータールーへ向けて出かけたから、サムエルがひとりきりでハーモニーにのこっていることは考えられない。

マーテン・ハリスはこの情報を耳にして、ペンシルベニヤへ行ってジョセフたちが成功している様子をぜひ見たいものだという気持ちを起しました。ハリス氏がこれをハリス夫人に言うと、ハリス夫人はハリス氏をペンシルベニヤへやるものかと決心し、同時に、ジョセフが今従事している仕事を完成することをさまたげるような困難にジョセフをおとし入れようと決心しました。

この目的を果すために、ハリス夫人は、ジョセフはあの「記録」をもっていると人前で公言したが実は持っていない、また或る金版をもっているふりをしているが、実は金をもうけるという特別な目的でそうしているのである、ということを証明しようといたしました。この計画に従って、彼女は馬に乗り、暗黒の霊のように家から家へと隣り近所をのこらず訪問して、何か情報を集める望みがいささかでもあるところは熱心にたずねまわり、彼女の悪い目的に役立つ悪感情を一つのこらずかき立てました。そして、自分に味方をする者の数と力とをたしかめた後、ライオンズのある治安判事にジョセフを

訴えました。彼女はそれからライマン・カウドリのところへことつてをして、（ジョセフに有罪の判決があった場合に）ジョセフを逃げないように牢屋へ入れる助けをするため、大急ぎでペンシルベニヤへ行く準備をしてライオンズへ来るようにたのみました。

註。ライマン・カウドリはオリヴァ・カウドリの兄弟で、郡の役人であったかも知れない。

ライマン・カウドリはこの呼びかけにすぐこたえたので、万事はハリス夫人にとって順調に行っているようでありました。彼女は、自分自身多くのことに対して陳述書をつくり、召喚する役人たちにあてて出しました。その中にはこの事件の主な証人である彼女の夫ハリス氏も入っていました。

裁判の日がやってきたとき、隣り近所の人たちが私たちのところへ来て、もしも宣誓によって得ることができるなら、ジョセフが有罪である評決を得ようという意向を公然あらわして、証人たちはすでにライオンズへ行ったと告げました。私たちの友人が去るとすぐにハイラムが入ってきましたので、私はどうしたらよいだろうかとハイラムに聞きました。

するとハイラムは「そうですね、お母さん。神さまにたよるほか私たちは何にもできません。神さまの中にすべての助けと力があります。神さまはあらゆる困難から救って下さることができます」と答えて言いました。

私はこの大切な義務を一度たりともおろそかにしたことはありませんでしたが、それでも、今私の息子の信仰がこのように強いのを見て、この試れんの時に力づけられました。私はこのような訴訟にはなれて居りませんでしたから、どうなることかと体がふるえました。これは私の家族の者に提起された最初の訴訟であったからであります。私は人の居ない所へ行き、私の心をすべてかたむけて私の息子の安全を神さまに乞いねがいました。そして、しばしの間神さまに嘆願をつずけましたところ、とうとう「みたま」が力強くお降りになったので、すべての不吉な予感は私の胸の中から消え去り、一つの声が私に話しかけて言いました、「彼の髪の毛一筋たりともそこなわるることなし」。これを聞いて私は満足しました。私は立ち上って家へ行きました。私は一生のうち、この時ほど幸福であったことはありませんでした。私は腰をかけて本を読み始めましたが、感情が高ぶってとても静かに読んでは居れませんでした。それから間もなく私の息子のよめジェルーシャが部屋へ入って来ましたが、私をながめたとき急に止まって「まあ、お母さま。どうなすったの、今日のように変ったお顔は初めて拝見しましたわ」と叫びました。

そこで私は、今日くらい幸福な日は一度もあったことがない、私の心は軽々としているので、私の精神は全く静かである、私が生きている間もう苦しみは決してありそうもないと思われる、と申しました。それから彼女に、私が主なる神さまから受けたあかしについて告げました。

その晩、法延の訴訟手続がもう一度私たちに話して聞かされましたが、それは次の通りであります。

証人たちが定められた通り宣誓をすますと、最初の証人が立ってジョセフ・スミスは私に、自分のもっている箱には砂のほか何にも入っていないと言いました。しかしジョセフ・スミスは人々をだますために砂を金だと言ったのでありますと証言しました。

次の証人は、ジョセフ・スミスは私にそれは鉛の箱にすぎないと言いましたが、自分が適当だと思うように利用しようときめたのでありますと証言しました。

最後の証人は、一度私はジョセフ・スミスにその箱の中に何があるかとたずねましたところ、ジョセフは箱の中には何も入っていないのだと言い、そしてみんなをだましてやったが、マーテン・ハリスから金を取りたいだけでやったことなのだ、と申し立て、その上ジョセフ・スミスはハリスを説得してもう二三百ドルは取っていることを知っていると言いました。

次にハリス夫人の陳述書が読まれましたが、彼女はその中で、ジョセフ・スミスが考えている主な目的は彼女の夫からすべての財産をかたり取ろうとしていることだと私は信じています。また、ジョセフ・スミスがあれほど言いふらした金版を持っているとは信じませんと言いました。

そこで治安判事はマーテン・ハリスの宣誓を聞くまでこれ以上証人から証言を聞くことをとめて、マーテン・ハリスを呼び入れました。すると、マーテンは二・三の簡単な事実を勇敢に、きっぱりと力強く証言しました。マーテン・ハリスは片手を天に向けて挙げ「私は次の通り誓って言うことができます。ジョセフ・スミスは一ドルといえども私を説得して自分のものにしたことはありません。神が私に与えさせたもうたからであります。私は自由の意志により、主なる神のみわざを行なうため、多くの証人の目の前で彼の手に五十ドルの金をわたしたことがあります。私はこれをはっきりと証明することができます。さらに、私はジョセフ・スミスを見ているに、彼には他人の金をとるような性質はない、他人から金をもらったときには返礼としてそれに相当な報酬を必らず与える人であることを知っていますと申しあげることができます。またジョセフが持っていると人々の前で言った版については、もしあなたがたがそれを信ぜずいつまでも真理を拒みつずけても、いつかはそれがあなたがたの霊の進歩をさまたげるなかだちとなるにちがいありません」と言いました。

註。マーテン・ハリスがこのように勇敢に予言者を擁護したのは まことに立派である。

この証言を聞き終ると治安判事は一同に向って、これ以上証人を呼ぶには及ばない、今までに文書にしたためてある証言を提出するようにと命じました。その文書が出されると判事をそれを一同の目の前でずたずたに引き破り、このようなばかげた事で本官をわずらわせないで、各々家へ帰って家業に精を出したらよかろうと言いわたしました。それで相手は完全に計画をくじかれて各自の家へ戻って行きました。

第二十九章　ジョセフとオリヴァ、ウォータールーへ移り、金版の翻訳完成する

さて、ジョセフとオリヴァが一生けんめいあの「記録」の飜訳に従事していたペンシルベニヤへ私たちの話を戻しましょう。

サムエルが二人をのこして旅立って行った後、二人はニューヨーク州ライオンズで訴訟が起った時の近くまで、以前と同様飜訳の仕事をつずけました。そのころ、ジョセフが「ウリムとトミム」を使って飜訳をしていましたとき、ジョセフは（後にモルモン経となる）飜訳のことばを受けるかわりに、ウォータールーに住むデ

ビッド・ホイットマーという人のところへ手紙を書いて出せということばを受けました。その用向というのは、悪事を計画している人たちが、神のみわざの世界中へひろまるのをさまたげるため、ジョセフの命をとろうとしているので、オリヴァと彼とをホイットマーの家へつれて行ってくれるよう、車を曳く一組の馬と一しょにすぐ来てもらいたいということでありました。ジョセフはこの手紙を書いて出しましたので、デビッドはそれを受けとって読み、父母兄弟姉妹たちに手紙を見せて、この件についてはどうしたら一番よいかと一同にたずねました。

　するとデビッドの父親はデビッドにむかって、お前は少くともたっぷり二日かかってまぐわでならすに充分なほど麦をまいておいたはずだ。またその上に多量の石灰があるが、これはすぐにまいてしまわなくてはならない。そういうわけで、絶対に行かなくてはならないということが神から証明されなければ行くことはできない、と申しました。

　デビッドは父親からこのような提案をされたのを喜び、ジョセフを助けに行くことについて証しが得られるよう主なる神さまにおねがいをしましたところ、「みたま」の声により、麦にまぐわをかけてしまったらすぐに行けと言われました。そこであくる日畑に行って見ますと二日間一生けんめい仕事をしなくてはならないことがわかりました。それでデビッドは自分の胸に問うて言いました。もしも何かの方法で、いつもよりも早くこの畑仕事をしてしまうことができたとするならば、ジョセフ・スミスが従事している仕事を助けるために全力を尽せという神のみこころである証拠として受け入れよう、と。デビッドはそれから馬をまぐわにつないで畑を、ふつう農夫が言っているように、二つの耕地にわけないで全部の畑にまぐわをかけました。このようにしてお昼まで休みなく働らき、昼食をとるために一休みしたときまわりを見わたしてみると、驚ろいたことに畑の半分は完全にまぐわをかけ終っていました。そして、昼食を終るとまた前のように仕事をつずけましたが、夕方ごろにはたっぷり二日かかる仕事を一日ですませてしまっていました。

　デビッドの父親はその晩畑へ行ってみてデビッドのした仕事をみると、「これには神の御手がはたらいているにちがいない。お前は石灰をまいてしまったらすぐにペンシルベニヤへ行った方がよいと思うよ」と言いました。

　そのあくる朝、デビッドは木のますを小わきにかかえ、石灰を畑にまこうと、二日前から妹の家の前に石灰をつんでおいたところへまいりました。ところが、その場所へ来てみますと、何としたことか！　石灰はなくなっていました。そこでデビッドは妹のところへ走って行って、石灰がなくなったがどうしたことか知っているかと聞きました。それを聞くと妹は驚ろいて言いました、「何でまたそんなことを聞くの。石灰はきのうまいてしまったんでないの？」。デビッドが「そんなこと知らんよ」と言いますと妹は、「まあ、そうなの。おひる前に子供たちが来て、お母さん出て来て畑へ石灰をまいている人たちをごらんよ。あんなに早くまく人見たことないわと言うので、出て行ってみるとその通り三人の男の人たちが畑で仕事をしていたのよ。しかし、私はあんたが忙がしいので手伝いをやとったのだと思ってすぐ家に帰ると、すっかり気に止めないでいたけど、今聞いてびっくりしたわ」と答えました。

　デビッドはこれについて親戚の人たちにも近所の人たちにもかな

り問い合わせてみましたが、だれがしたことかわかりませんでした。しかしながらホイットマー家の人たちは、この不思議な出来事には神の御手が働らいていらっしゃるにちがいないと信じました。

そこでデビッドはすぐにペンシルベニヤへ向けて出発し、二日たって到着しました。この道のりは百三十五マイルにおよびましたが、すこしも馬をいためずに旅をすることができました。ペンシルベニヤへ着いたときデビッドはジョセフに自分を紹介しなくてはなりませんでした。デビッドがジョセフと顔を合わせたのはこれが始めてであったからであります。

私から申しますと、スミス家とホイットマー家とが知り合ったのは、私たち夫婦がジョセフをたずねるためマンチェスターからペンシルベニヤへ行ったときの一度だけで、その時私たちははじめてデビットの家にとまり、あの「記録」のことについて簡単に話をしたのでありました。

さて、ジョセフが旅の支度をし始めたとき、ジョセフはどのようにしてあの「金版」をもって行くかを知るために主なる神さまに伺いました。そのお答えには、「金版」はすべて天の使者の手にまかせよ、安全をはかるためである。そして、ホイットマー家についてから、天の使者は庭で汝と会い再び「金版」を汝の手にわたすであろう、とのことでありました。

ジョセフとオリヴァとは、留守の間のことはエマに任せておいて直ちに出発しました。そしてウォータールーに着くと、さきの約束通り再び「金版」を天の使者から受けとりました。翌日、ジョセフとオリヴァとは飜訳の仕事に再びとりかかり、それから何のさまたげも受けずに、ついに飜訳を完成いたしました。

註。エマは間もなく二人のあとを追ってホイットマーの家へ着いた。エマがジョセフと一しょにホイットマー家に居たことは解っている。

すでに述べたように、デビッド・ホイットマーによると、デビッドがジョセフとオリヴァとをつれてウォータールーに着いたのは千八百二十九年五月の下旬か六月の上旬である。

第三十章　十二人の見証者に「金版」が示される

ジョセフは「モルモン経」の飜訳がすむとすぐに、飜訳が完成したという知らせを持った使いを父親のところへよこして、私たち夫婦にすぐウォータールーへ来て下さいと言いました。

註。デビッド・ホイットマーによると、「モルモン経」の飜訳は千八百二十九年六月の下旬に完了した。

その夜、私たちはこの知らせをマーテン・ハリスのところへも持って行きました。この人の弱点は私たちに大きなめいわくをかけて居ましたが、この際、吉報を持って行きますとそれを聞いて彼はひじょうに喜び、ジョセフの成功を祝うためにすぐウォータールーへ行くことにきめました。これによって、翌る朝私たちはつれ立って出発し、夕方になる前にホイットマー氏の家でジョセフとオリヴァに会いました。

その晩、私たちは飜訳された原稿を読んですごしましたが、私たちがどんなに喜んだか読者の皆さまに申しあげるまでもないことであります。その時、これからの仕事がどんなに大へんな仕事であるか本当に解っていない私たちにとって、最大の困難がこれでのり切られたかのように思えたのであります。しかし、「神権の時代」を

ゆだねられたジョセフには、その性質がどんなものであるか私たちよりもよく解って居りました。

そのあくる日、いつもの通りの礼拝、すなわち聖書の朗読、讃美歌、祈り等をすますと、ジョセフは立ちあがって、今考えても私の血管という血管にじーんとひびくほど壮厳な態度でマーテン・ハリスに近づき、「マーテン・ハリス、あなたは自分の罪を赦していただくために今日神の御前にくりくだらなければならない。もしもへりくだるならば、あなたはオリヴァ・カウドリ、デビッド・ホイットマーの二人と共に、あの金版を見るであろう。これは神のみこころである」と申しました。

その数分後にジョセフ、マーテン、オリヴァ、デビッドの四人は家の近くにある木立の中へ入って行き、主なる神に祈りをささげ熱心に祈願をつずけました。その結果、ついに天の使者が神のみもとから天降り、ジョセフがあの版について証しをしたことはすべて真実であるとおごそかに言いました。

四人が家へ戻ってきたのは午後三時と四時の間でありました。家へ入ってくるとジョセフは私の側へどっかり腰をおろして「お父さん、お母さん。私がどんなに喜んでいるかご存じないでしょう。主は私以外に三人の者にも、今やあの版を見せて下さいました。三人の者は彼らに証しをした天の使者を目のあたり見ました。それですから、彼らは私の今まで言ってきたことが真実であると証しをしなくてはならぬでしょう。それは私が人々をあざむくために一生けんめいになっているのでないということを、今や彼ら自身知っているからです。それですから、私はほとんど負いきれなかった重荷をおろしたような気がします。また私はもうこれから世界中でひとりぼっちではないので私の心は喜びに満ちています」と大声で言いました。この時ハリス氏が入ってきましたが、ほとんど喜びに堪えきれないような様子で、見たり聞いたりしたことを証ししました。デビッドもオリヴァもその通り証しをした上に、私たちの心の中の喜びと見たり聞いたりしたことのすばらしさは、とても口では言いあらわせませんとつけ加えて言いました。

この三人の見証者が書きあらわした証詞はモルモン経にのって居て次の通りであります。

「このモルモン経を手にするあらゆる国民、あらゆる血族、あらゆる国語の民およびあらゆる人々よ聞きたまえ。われわれは父なる神とわが主イエス・キリストの思恵によって、この記録の誌してある版を見た。これはニーファイの民と、その同胞であるレーマン人と聖典に語られているあの塔からきたジェレドの民の記録である。また、われわれは神の御声が明らかに告げたもうから、神の賜と能力によってこの記録が飜訳されたことも知っている。それであるから、われわれはこの経典が真実であることが確に解るのである。またわれわれは、その版の上に刻んである文字を見たことと、この文字を見せたのは人間の力でなくて神の御力であることを証する。また、一人の神の使が天降り、この版を持ってきてわれわれの目の前に置きたもうたから、われわれはその版とその版の上に刻んだ文字を確に見たことを謹んで明言する。われわれが目に見てこれらのことが真実であると証するのは、父なる神と、わが主イエス・キリストの恩恵によることを知っている。これはわれわれの目に誠に驚嘆すべきことではあるが、主の御声がわれわれにこれを人に証せよと命じたもうたから、神命を畏んでこれらのことを証する。

扶助協会レッスン

「神学」—教義と聖約
（千九百六十四年三月第一週）

第五十四課　管理人の職　復習

（教義と聖約」七十、七十二）

目的—管理人の職の重要さ、監督の仕事及びこの年の啓示の貢献に就て学ぶ

はしがき

一八三一年の十一月の最初の十二日間に予言者、ジョセフ・スミスによって四つの特別大会が司会されました。これらの大会の模様の一部は既に述べて来ました。（扶助協会雑誌、一九六三年度九月号、第五十二課）その事務の主なものは啓示を集めた誡命の書の編集でありました。この時予言者はこの啓示がすべての人に知られる価値あるものであると評価したのでありました。彼は先づその啓示は末日に於ける教会の土台であった事を指摘しました。予言者は又これらの啓示は神が啓示し給うすべての言葉に喜んで従おうとするすべての人に永遠の生命をもたらすので世の中に、大いなる利益を与えるものであると言いました。人がこの事実を考える時彼は直ちに次の事を思い出すでありましょう。先づ神の指示は、その為に回復された神権を以て教会を組織することに与えられました。次に啓示は救いの原則と儀式を以て忠実な人を昇栄に導く救いの道を明らかに示して居ります。第三番目にそれらは誓約が如何に破られずに守られるかに就ての特別の指示を与え、人の生涯に於ける目的を理解させているのであります。第四番目に主のみこころは、世界の現状から人は将来に何を期待すべきかを示して居られます。第五番目に肉体的に霊的にこの生涯に於てよい生活をすることによって、如何に喜びがもたらされるか、その大きな祝福を示しています。人の知識にもたらしているこれらの又その他の貢献は予言者の評価を充分に支持するものであります。

十一月に開かれた最初の大会で次のように啓示を印刷することを承認し票決したのでありました。……彼らは啓示は現実生活の事を示して、教会にとって価値あり、又全世界を富ませるものであるとねぶみしました。主がその無限の英知を以てよしとせられ、すべて信ずる者に救いを得させる為に又私たちの救いの為に与えられた啓示とモルモン経から、世の中にもたらされた大きな利益は正しく評価されたのでありました。……

（教会歴史録第一巻　二三五—二三六）

この声明に次いで予言者は彼の求めに応じて七十章が与えられたと書いて居ります。

第七十章

第七十章の一節に数名の長老たちの氏名が記され二節から九節に啓示を印刷するにあたっての彼らの責任に就て述べられてあります。更に彼らはその出版配布迄見届けねばならなかったのであります。書物は売却せられその残余は監督の手許に置いて、シオンの忠実な住民に献上する為に主のくらに納められたのでありました。

大会の議事録の中に、最初から予言者と共に働らいた四人の兄弟、オリヴァ・カウドリ、マーテン・ハリス、ジョン・ホイットマー、シドニー・リグドンの氏名が記されています。彼らは他の数家族と共に、教会の律法によってシオンの監督から、遺産を承ける資格があったのであります。（教会歴史録第一巻　二三六頁）

管理人

第七十章に記名された兄弟たちの前述した啓示を心配する責任は管理人として参照されました。管理人としてこれらの長老たちは、厳密にその責任を果さねばなりませんでした。管理人としての重責は次のように示されて居ります。

〝而してこの管理人の職のことに就きては、われ審判の日に聞きただすところあらん。〟（教義と聖約七〇・四）

この真理の適用を全教会員に主が与え給うたことにあてはめてブリガム・ヤングは次のように論じています。

〝……私たちの義務は何でしょうか？　主が私たちに与えられたすべての祝福を進歩させるのが私たちの務めであります。若しも彼が私たちに土地を与えて下さるならそれを改善する。若しも彼が私たちに家を建てる特権を与えて下さるならそれを発展させる……若し

も彼が私たちに集会の特権を与えて下さるなら、私たち自身を潔めましょう。神はみこころによって世の中より末日聖徒を召し給いもろもろの民から彼らを集めてこの地上に於て住む場所を与えたのであります。これは祝福でしょうか？　はいそうです。人々が悪人の悪から逃れ、世の災害と喧騒から解放されることは人が楽しむことの出来る最大な祝福の一つであります。この祝福により私たちは私たちの天の父なる神に私たちが忠実な管理人であることを示すことが出来ます。そして神が私たちの手に置いたものを天から神の声がある迄、自分たちのものであると云うことなく神に帰する特権は更に大きな祝福であります。（説教誌二巻　三〇四―三〇五頁）

この地上に於て私たちは実際には主のものであるけれども合法的に私たちの所有にかかわるものの管理人であります（モーサヤ書二・二〇―二六）教会内の職務を含めて、これらの祝福を私たちが如何に取扱ったは審判の日に聞きただされるのであります。第七十章が与えられた頃並にその後しばらくの間は、すべての会員が全財産献納法に従うべく義務づけられていたのでありました。そして誰一人として例外は認められなかったのであります。（教義と聖約七〇・一〇―一一）この律法による時すべての人は平等でなければなりません。けれどもそれは文字通りの同等と云うものではなくて、各人の必要と状態に広じて受けるのであります。（同上一四―一八　四二・三二　五一・三）

報いを得る

主は七十人に彼に先だって町や村に伝道に赴くように命じた時に、その訪ねた家で提供される必要なものを受けるようにすすめました（ルカ伝一〇・一―八）イエスは七十人に〝働き人がその報いを得るのは当然である〟（同上七節）と教えたのであります。この真理は、この神権時代に与えられ前述した律法の下に教会々員の福祉の為に働らく者は、必要なものをその必要に広じて受けるのであります。この律法は教会の単に物質的方面だけでなく霊的方面の仕事に任命された人にも適用されるのであります（教義と聖約七〇・一二―一三）この点に関して教会が組織されてまもなく予言者ジョセフ・スミスが予言者としての義務を果すように要求されたので彼の生活を支持するように三つの支部に啓示が与えられたことが思い出されるのであります。（同上二四・三―四）この神権時代のいろいろな時に奉仕又は物質的援助をした或グループに対して報酬が与えられたのであります。（教会歴史録第一巻二二〇頁）報酬の律法と名づけられるものは四十二章の七十節から七十三節迄及び四十三章十三節にもあります。人がその全時間を彼らのお召しに捧げ生活費をつくることが出来ない時にのみ報酬は許されるのであります。けれども主として教会の男子会員は金銭的な給与を受けず神権によって働らいているのであります。すべての教会々員は彼らの時間と才能と財産を神の王国を前進させる為に捧げるように期待されるのであります。そのような奉仕の霊的な報いはこれに参加した人に知らされるのであります。

第七十二章

予言者とシドニー・リグドンは誡命に従って伝道の任務に就いたのであります（七十一章）この時オハイオ州のカートランドで、多くの長老や会員たちが明らかに主の答えを要する質問をしました。そこで七十二章が与えられたのであります（教会歴史録）巻二三九頁）

約この一年前予言者がカートランドに着いた時、主はエドワード・パトリッジが教会の監督に任命されるべきであると啓示されました。（教義と聖約四一・九―一〇）それから間もなくパトリッジ監督とジョセフ・スミス、その他の人が西部ミゾーリに行きそこで監督は全財産献納法の律法に従って彼の任務を遂行したのであります。（同上五七・七　一四―一五）カートランドに於ける物質的又霊的な必要から、主はカートランドに於ける監督を任命しました。任命されたのは、ニューエル・ケイ・ホットニーでありました（会長七二・二・八）彼の召しに就ての興味ある話が彼の孫でこの神権時代の十二使徒であったオルソン・エフ・ホイットニーによって次のように述べられています。〝ニューエル・ケイ・ホイットニーは彼の上に負わされるであろう重責を案じて予言者に、「ジョセフ兄弟、私はとても監督になれそうもないですよ」と言いました。

けれども神は彼の内にそれを見ることが出来たのであります。彼は監督としての素質を備え、一級

の事務家でありました。恐らくこの重職、監理監督会の責任を負うのにニューエル・ケイ・ホイットニーよりも資格を持った人はなかったのであります。けれども彼はそれを見ることが出来ず、その責任に、しりごみしたのでありました。予言者は答えました。「行ってそれを主にたずねなさい。」そこでニューエルは言われた通り主にたずね、彼は天より次の声を聞いたのでありました。「汝の力は我が内にあり。」それで充分なのであります。彼はその職を受け、そして彼の生涯の最後の日迄十八年間忠実に仕えたのでありました。（一九一九年六月、大会報告四七—四八頁）

ホイットニー監督の義務は次のように定められました。

(1)その地方の長老たちの管理人職の報告書を受ける。
(2)主の倉庫を守る。
(3)資金を受け納める。
(4)長老たちの不足するところを授ける。
(5)支払うべき金を持たない長老の報告書を受けとってこれをシオンの監督パトリッジに送る。

（教義と聖約七二・五—一三）

ホイットニー監督はその地方の長老たちの管理人としての職を監督するように要求されましたが管理人たち各自も、その時も、永久にも管理人の職に関する報告書を差出すことを要求されたのであります。（同上、三節）祝福の基く律法に従うときに天からの祝福がもたらされるのであります（同上一三〇・二〇—二一）私たちは次のように告げられて居ります。

〝……忠実にして賢き者はわが父の彼に備えたまえる住家をつぐ資格ありと認めらる〟（同上七二・四）

適用

前述のカートランドに於ける列挙された監督の責任を見る時、そしてそれを今日のワード部の監督にあてはめて見るときにこの職の同様の責任を見ることが出来るでありましょう。七十二章の十二節に監督は貧しい者乏しい者の世話をすると述べられてあります。監督の召しは、単に貧しい者、病める者、苦しめる者の世話をするだけでなく次のような責任のあることをジョセフ・F・スミス大管長によってよく説明されて居ります。

〝教会の会員の霊的福祉をも考慮し、彼らが道徳的に清く正直な生活をしているか、末日聖徒としての責任を果しているか、お互に又世の人との交りに於て真実であるかなどを見守ることも管理者の職にある監督の義務であります。

会員たちの心の中に霊的な光がともされているかどうか、そして彼らの管理の下にある人々が肉体を持っている限り、弱さと不完全さに悩まされ得る以上、聖徒としての生活をして、聖徒たり得るであろうか見極めることも彼らの務めであるのであります。これらのことに偉大な責任がかかって居り、私たちは教会の中で働らかねばならず、これに関連して人類の福祉の為に忠実に働らいている巨大な有効な一団の人々が居るのであります。（一九〇四年十月大会報告三頁）

七十二章の結論

全財産献納法運営に就ての情報が更に与えられ、カートランドに於ける教会の会員に対し、彼らが資格ある会員であることを示す証明書を携えてシオンに行く必要があることが特に強調されました。（教会と聖約七二・一六—二六）同様の手続きが今日でも会員証として知られるものに見られるのであります。

この啓示は賢明な管理人は啓示された注告に従うと結論している（同上　二五—二六）要するに主の言葉に従う会員は教会に関することを第一にします。シオンの為に献身するプリガム・ヤングの生涯は忠実な管理人の素晴らしい模範であります。（教義と聖約註釈四二八頁）私たち各人は皆賢明な管理人としての要求にかなっているでしょうか？

過去はどうでしたか

七十二章は一八三一年度最後の啓示であります。教義と聖約の巻頭にある〝年代順の内容〟に示されてある通り、この年が最も多く啓示を受けた年であります。

この章を復習する時、一八三〇年の後半及び一八三一年に教会が急速に成長した為に多くの問題を生じたことを示して居ります。年の始めに、主は聖徒たちの貧しいことを認めて、〝律法〟を与え、若しそれに生活するなら物質的に恵まれ霊的に彼らを一つに結合させるであろうと約束されたのであります。その結果は各人が地上の富を平等に祝福されることとなるのであります。（三十八章）メルケゼデク神権の大祭司、監督、アロン神権の管理者、及び教会の歴史家などの役員が教会に追加され

ました。（教義と聖約註釈二〇五頁、教義と聖約四十一章、七十二章及び四十七章）約束された〝律法〟（四十二章）は

(一)福音を説くこと
(二)道徳的な行動（貞節）
(三)献身
(四)病人を癒す為の接手
(五)いろいろの義務
(六)奉仕に対する報酬
(七)罪に就ての律法

を含んで居ります。

只一人の人だけが教会の為の啓示を受けることが出来るが他の者もそれぞれ各自の導きの為に受けれるという根本原則も与えられました。主の再臨の前に関係する事項に就ての大いなる啓示がこれに従ったのであります（四十三章及び四十五章）

一連の啓示は一八三一年及びそれに続く数年間、教会の会員の為に、だまされないように警告する鍵を含んで居ります。この章には聖霊の賜により、会員たちが欺かれないようにいろいろな賜を以て強められ、利益が加えられることを助言して居ります。（四十六章）シェーキング・クエーカーとして知られる宗派の人々に伝道するように主は命ぜられ（扶助協会雑誌一九六一年八月号第三十四課）又この世の目的、結婚の必要なこと、偽りのキリスト及びその他の詐欺者に対抗する鍵、逐には教会は、ロッキー山脈地帯に移動するであろうことなどに就いて知らされました。（四十九章）五十章で偽りの霊が不注意な者をだまそうとしてあらわれることに就て教えられました。教会の内外に於ける偽りの教えを検査する為の指示が与えられました（五十二章）

導きを求めている各人に助言が与えられました、それは次の三つの事実を指摘して居ります。

(一)早く主を求める者は、この世で完全な長い生涯を送る為豊かな恵みを受け又永遠の祝福を受ける（五十四章）
(二)常に誠命に生活し終り迄、堪え忍ぶことによって最高の栄に高められる（五十三章）
(三)人が已の十字架を背負うことは、誓約の子として多くの約束を果さねばならないのである。（五十六章）

予言された新エルサレムの場所及び方向を知らされ聖徒たちの期待が実現されました。この地上にシオンを建てる為に働らく目的が明らかにされました（五十七章及び五十八章）

この時期に、安息日を守ること及びこれに従うことによって多くの便益がもたらされることが知らされました。（五十九章）

多くの艱難に逢うこと（五十八章）及び末の日に水の上を警戒するよう啓示されました（六十一章）

宣教師にその才能を使うように、又証しを述べるように命ぜられました（六十章及び六十二章）

しるしを求める者の運命が再び示され、神聖なことを軽んずる者に対する警告が強調されました。（六十三章）

本年度の勉強する章はその年の啓示を完全に終えております、即ち悔改めと赦し、神の業の終局の勝利、教会組織に就ての私たちの知識に対する更に追加、監督会、そして最後に子供を育てる親の責任であります。

結　論

啓示の確実なことは、その内容と、この神権時代の目的にかなった統一性とその秩序ある配列によっても明瞭であると真実に言うことが出来るのであります。ジョセフ・スミスは神の導きに従おうとする人たちを導くべく任命された神の予言者であったのであります。

討議の為の質問

一、教義と聖約の中の啓示は、如何なる方法に於て教会の基礎となっていますか？
二、貴方は教会の会員を〝賢明な管理人〟として資格ずける特別な資質は何であると考えますか？
三、〝働き人がその報いを得るのは当然である〟に就て討議しなさい。
四、一八三一年度に受けた啓示の内、特に目立った貢献をもたらしたものを挙げなさい。
五、教義と聖約註釈四二九頁にあるように、一八三一年度の啓示の評価に於て主要な点は何でしょうか。

訪問教師のメッセージ

（千九百六十四年三月第一週）

「教義と聖約」にもとずいて実践する真理

メッセージ第五十四

「およそこれを受くる者は更に豊に与えらる」（教義と聖約　七一・六）

目的　知識はより多くの知識に導き知識は知恵を得ることを示

す。

このメッセージを引用した教義と聖約の全文は次のように述べられてあります。

〝さて見よ、これは知恵なり、故に読む者すべからく悟りてまたこれを受くべし。およそこれを受くる者は更に豊に与えらる。能力すら与えらるるが故なり。〟（教義と聖約七一・五―六）

福音を宣べ伝え、授けられたみたまと能力によって王国のことを説明するように召された人たちは、福音の真理を宣言する時に、更に福音を教える能力を与えられるのであります。才能又は能力を加えられると云う約束は主によって次の言葉にも見られます。

〝おおよそ、持っている人は与えられて、いよいよ豊かになるが、持っていない人は、持っているものまでも取り上げられるであろう。（マタイ伝一三・一二）

この約束の成就は、私たちが福音を宣べている時だけでなく知識、知恵及び理解を求めている時にも自覚されるのであります。知識に知識を加えることの確認は、この生涯に於て、最も興味あり、その努力を報いられた満足と喜びを感ずるものであります。知識の興味ある特長の一つは私たちがそれを求めて受ける時にそれは拡大され倍加されて私たちにもたらされることであります。真理は更に多くの真理に導きます。知識は更に知識の門を開き、人はその学ぶ能力が進歩し、理解する範囲が拡大することを学びます。ヒーバー・ジェー・グラント大管長は次のようなエマーソンの金言をよく強調しました。

〝私たちが或ことを為し続けていると容易になる。それはそのことの性質が変化したのでなく、それを為す私たちの能力が増大したのである。（福音の標準三五五頁）

グラント大管長自身の生涯がこの根本的な真理の劇的な模範でありました。彼は練習と特続を以て多くの並々ならぬ困難に打克って一つ一つ習得し、それを以て更に次のものの習得に備えたのでありました。彼の習字の努力が殆ど読めなかったような字から、素晴らしく美しい筆跡となったことは有名であります。又彼は小さい時に音痴で、彼に音楽を教えようとした教師は失望したのでした。けれども彼の決断と一歩一歩練習し続けるその努力は逐に多くの歌や讃美歌を習得したのでありました。有名な音楽家のジョージ・ディー・パイパー氏は曾て次のように言いました。

〝グラント大管長は性来世の多くの人よりも音楽の才能に欠けていた。けれども彼は非常な努力を以てこのハンディキャップを克服したのである（偉大な指導者の生涯四十八頁）ヒンクレー・ブライアントS

確かに私たちが一つの任務を逐行出来たら私たちの能力は進歩して更に大きな任務遂行へと進むのであります。誠に教義と聖約に言ってある通りであります。

〝およそこれを受くる者は更に豊に与えらる。能力すら与えらるるが故なり。〟（教義と聖約　七一・六）

救主は伝導中に彼が教えようとした多くの人が目があっても見ることが出来ず耳があっても聞くことが出来ず又理解出来なかったことを悲しみました。不幸にもこの事は私たち自身の経験にもしばしば真実であります。私たちは見ることを拒み或は知識を受けようとしません。私たちはしばしば混乱と、自己満足と不安定と確信の欠如によって、知識と理解がもたらす喜びと完成を盲目にし、私たち自身を欺いています。

数年前に英国海峡を征服した偉大な女流水泳者がそれよりも短距離のカリフォルニヤ海岸からカタリナ島に泳ごうとしました。水は冷たくて海面には濃霧がたちこめていました。殆ど泳ぎ尽くした処で彼女は断念して、つきそっているボートに乗せて下さいと頼みました。その後彼女は、その距離と水の冷たさが失敗させたのであろうとたずねられた時答えました。

「いいえ、冷たさでも距離でもありません。それは濃霧であります。私は目標を見る事が出来なかった時に失望したのであります」

霧（確信と信仰の欠如）は私たちの眼をくらまし私たちは私たちの目標を見ることが出来なくなるのであります。私たちは失望し、私たちの心を閉じるので知恵と理解を得ることが出来なくなるのであります。その結果、私たちが実際に資格づけられている成就に失敗してしまうのであります。

完遂と達成の喜びを得る為には、私たちは常にその心に一つの任務をよく成し遂げたら次の任務に導かれ、その達成は、一層容易となると言うことをよく心にとめておかねばなりません。私たちは

霧、自己満足及び不安定を以て私たちの眼と心をくもらすことなく、私たちが知恵と理解の内に進歩するなら、更に豊かに与えられると言う主の約束を常に覚えておくべきであります。練習によって筋肉が強くなるように、各新しい任務の成功的な遂行は私たちの能力を強化して次の任務に向わしめるのであります。一歩一歩と私たちが進歩する時、私たちは知恵と知識を受け、そして強さと力を得る才能を増大させるのであります。

仕事会

（千九百六十四年三月の第二週）

「**末日聖徒の家庭**」

考察その十四、家族の伝統保存

計画

目的　過去の伝統と価値を生活に取入れ特に記念すべき事項の思いを新にして家族の結合をはかる。

私たちが価値ある家族の伝統を打建てることによってその価値を教えることを考える時に、その人の愛国心が極めて大切に思われます。愛国心と云うものは偶然に発生したものではありません。私たちは平時に於ても戦時に於けると同様に私たちの理想を保存し持続させる為にしっかり働らかねばなりません。すべての国民は、その国民にとって忘れられない記念日を持って居ります。これらの日は、通常多くの働らきと犠牲の結果、自覚された理想の絶頂を記念するもので各家庭の伝統となり毎年いろいろな様式で祝われるのであります。家庭で始めるに当って子供がまだ小さいときに愛国心をうえつけるには国旗が大切であります。各家庭にその人の国の象徴である国旗が必要であり、すべての重要な日にそれを掲げるべきであります。子供たちにその価値を知らせる伝統は一年を通じて守り行われるべきであります。

多くの国民が例年、祈りと感謝の日を持って居ります。米国が最初にそのような日を宣言したわけではありません。昔のイスラエル人は最も古い感謝祭、〝幕舎の祭〟を祝ったのであります。主はモーセに〝地の産物を集め終ったときにイスラエルの家族たちに聖なる集会に集うように〟命じたのであります。家族たちは、空地に集って、〝美しい木の大枝と、なつめやしの枝と、茂った木の枝と谷のはこやなぎの技をとって、仮庵を建て、ここで主を祭ったのであります。或宗教的な儀式と祈りと感謝を捧げた後、供宴にあづかったのであります。（レビ記二三・三九―四一）

感謝祭は家族の集う日であります。国民及び家族の伝統が守られる日であります。主は家族が礼拝の心を以て集るのを喜ばれると申されたのであります。先祖からの伝統を喜んで守る家族は持続する一族のきずなを楽しむことが出来るのであります。家族の伝統をつくり維持することは、その家族員がたとえ千哩の海山をへだてていても結び合うところの心のきずなをつくりあげるものであります。多くのこの特別な家族の思出がこの感謝祭の日に関係して居ります。（一九五九年十一月号　扶助教会雑誌参照）

七月二十四日は又別の家族的伝統を呼び起します。

人の宗教と礼拝の自由に対する愛は強く、その人の愛国心に結びついています。今日の家族は、曾て開拓者たちが悩まされることなく自由に礼拝出来る場所を見出すべく広原をきり開いて遂に成功したそのほまれを如何にたたえることが出来るでありましょうか、一八四七年の開拓者をたたえるように子供を教えるのにどのような伝統的な行事を、したらよいでしょうか？　最初の記念行事は一八四九年に行われました。国旗掲揚の後、バンドの吹奏があり、ノーヴーの鐘をならしたのであります。閲兵式及びプログラムがあった後、すべての家族が自分たちの手でつくった土地の産物を豊かに食べたのでありました。

末日聖徒の家族は皆、直接又は間接に開拓者と何らかの関係を持って居ります。この関係が如何なるものであろうとも今日の子孫は一八四七年に人殖した又はその後に入った開拓者たちの話を聞くべきであります。すべての家族は最初に福音を受入れた人を持っていますが、その人は尊敬され記憶されるべきであります。旗を掲げ鐘をならしてなぜ家族の人がたすけ合って開拓者の食事をつくらないのですか？　開拓者たちは何でも持っている者を分ち合ったので、何か分ち合うことも七月二十四日の伝統の一部であります。

クリスマスの伝統に就て多くのことが書かれ、各家族は救主の降誕を崇める、自身の独持の方法を進展させるべきであります。クリ

スマスの伝統は、世界を通じ各国それぞれ異なって居りますが、各国に住む家族にとっては、それぞれ大切なものであります。これらの伝統は或家族がその本国を去った後も、永くその伝統を保ち続けるほどよく、その身につけられたものでありました。

家族の集いの時間はよく伝統を育成します、そのような計画又はプログラムにすべての家族が参加することは記念すべきこととなります。結婚した子供たちは、この愛すべき伝統を彼ら自身の家に設けることが出来ます。

末日聖徒にとって極めて大切な日に、その他の伝統がつくられます。父親によって赤ちゃんが祝福を受けた次の家族の集いに於て聖書時代に又は先祖に与えられた赤ちゃんの祝福を復習することが氏名と父親の祝福の大切なことを強調することになります。バプテスマ及び按手礼の日は生涯に於ける新しい出発として記念されねばなりません。家族の内で最初にバプテスマを受けた人の名は、いつでも参照出来るように常に考慮を払われねばなりません。神権聖任の日及びいろいろの職に召された日は家族の集いに於て特に認めて記録されねばなりません。これらの集いに於て若し家族の者からの激励のメッセージをそえて聖書、モルモン経、又は教会の雑誌の申込みなどがそのほまれある家族員に贈られるなら、精神的な成長をうながすよい励みの機会となるのであります。

誕生日はお祝いすべきで、その日を家族の例年の集いの日とすべきであります。けれども主の日を最上に迎えるべく定期的に毎土曜日に家を清掃し、靴を磨き、衣服をプレスすることなどの伝統は、最も強く印象ずけられるものであります。

貴方の家族の伝統は何ですか？彼らはどんな理想を育成しているでしょうか？ 貴方の答えは貴方の家族が二十年後にどのようになるかを強く提案しているでしょう。

社会科学

（千九百六十四年三月の第四の集りで）

「神の律法と教会制度」

第十二課 教会法廷（裁判評議会）

は教会制度の本質的部門である。

目的 神性な教会の義と慈悲に就て理解するように援ける。

〝義と公平はあなたのみくらの基いつくしみと、まことはあなたの前に行きます〟（詩篇八九・一四）

〝そは彼らはその為せる行為によりて審かれ、すべての人はその行為によりて備えられたる住家に於て各自の領分を受くべければなり〟（教義と聖約 七六・一一一）

〝見よ、およそすでにその罪を悔い改めたる者は赦され、主なるわれもはやこれを忘るべし〟（教義と聖約五八・四二）

人間社会を支配する根本的哲学

この世で最大に強力な作用を持つものは愛であります。それは最も神に近い人の性格であります。それは又最も大切な人生の律法であります。イエスは神を愛し隣人を愛すことは、すべての天からのすすめと指示の根本をなすものであると言いました。

愛は成功的な人間関係に本質的な社会的律法であります。人間そのものは社会的な存在であります。彼は人及び神との相互作用の産物であります。彼は家族の中に生れ、団体生活の経験の内に成長します。この経験から、彼は自然と彼の所属する団体の価値を知るようになります。彼のなした選択と理想の培養によって彼は彼の家庭及び社会、ひいては父なる神の王国に於ける彼の地位を確保するのであります。彼は孤立してこれをなすことが出来ないのであります。救いの計画は人が如何にその隣人と成功的に生活するかに立脚しているのであります。

一、選ばれた者

前の討議で福音の大きな目的、イエス・キリストの真の使命は人類を救うことであることを指摘して来ました。それは男も女も皆、神の王国に特に選ばれた者として慰安と確信を以て列席出来るよう完全な状態に導くことであります。特選の民とは神の知恵を理解し、生活の為の正しい様式を創造者の意志と計画にそうて適用することであります。これは決して人の自由意志を損ずるものでありません。

二、救いと完成

神は人を神の形のようにつくりました。そこで神会の潜在意識は人に承けつがれて居ります。救いの計画は完成への道を含んで居り

ます。私たちの完成の度合は私たちがどの程度神の指示、命令、及び導きに従うかにかかって居ります。

教会の目的は人類を救い高めることであります。このことは、彼にその能力を完全に表現し進歩させる機会を与えることを意味して居ります。すべての活動に於て教会は進歩の為の刺戟を与えて居ります。ウィツオ博士は、次のように言っています。

教会は救う為に存在するものであって、人を罰する為に在るものではないと言うことは常に念頭に置くべきであります。（教会の計画一九四一年度　一六二頁）

人間の行動の本質

前述したような完成に到達する為には各人の生活の中にいろいろな大切な事が正しい相互関係を以て総合して入って来なければなりません。第一に人間には他人と関係する行動に於て、受け入れられる方法がなければなりません。第二に社会道徳の教えの中に、堅実さと忍耐と愛と理解と調和がなければなりません。第三に各人は自制の術を学ばねばなりません。

主は完成への大きな約束であり、直接の道である生き方を示しました。母親の愛情は教育上に根本的な還境を備えます。この教育は、教会、学校及び一般社会によって援助されます。けれども人が自制の術を学び、創造者の意図にそい律法にかなった機会をつくり出す迄は、望むところの完成に達することは出来ないでしょう。

一、人間の過失

人はその成長の過程に於て他人の権利を浸害したり、社会道徳を無視したりする共通的な過失をおかすものであります。各個人の完成を退歩させる過った指導又は無指導は人間の要素であります。

二、教会及び国家の律法

政府は人々の間に秩序を確保し、人的及び物的権利を保護する為に始められたものであります。米国及びその他多くの国々に於て法律は人民によって定められました。法律によって各人に自由又団体に平和と安全をもたらしたのであります。法律を知ることは自由となる根底であります。これは神の律法に於て特に真実であります。聖文は真理は自由を得させると教えて居ります。（ヨハネ伝八・三二）人間の律法は、違反者に対しそれに相当する体刑を課する傾向を持っています。犯罪に対する最も効果的な処置は肉体的苦痛の刑罰であると云う共通した哲学があります。犯罪者はそれぞれの律法を犯したことに対し、彼の自由又は個人的な慰安が同様に犯されることを以て支払わねばならないとするのであります。この哲学の結果は秩序又は法律に従うことはしばしば社会に於ける法律の目的を知り理解する行為に証明される進歩発展と云うよりは、むしろ刑罰を恐れることによっているのであります。

三、悔改めの望み

神の律法の目的は人間をして救主の完たき理想として成長するように刺戟することであります。

若しも過りが這入って来た時には、個人の改革の為に悔改めと赦しの原則の道が開かれているのであります。世紀を通じて神は道から離れた者を連れ戻す為に悔改めを呼びかける偉大な指導者たちを選んだのでした。

正義と完全は相互に関連している

神の人間に対するすべての処置の内には恵みの要素があります。完成への信任は、この生涯に於て為されたすべてのよい行いに対し与えられるものであります。神の御計画は、すべての霊魂を天の王国に戻すことであります。人が神の注告に従って生きる時、社会悪の悲劇と悩みを避けるのであります。これらの手かせから解放されて彼らは生成発展することが出来るのであります。（ニーファイ第四書参照）

生命と救いの計画はすべての人に正しい生活の価値と利益を教えます。道から離れた者には彼らがその過りを自覚して、その自由意志を使って、創造者の意図に従うように望んで特別な注意が与えられます。国の法律はその民を罪から追放しようとするものであります。現在この目的は、改革又は完成でなくして、懲らしめにあるようです。監獄はこの様の生きた証に満たされて居ります。

教会法廷の目的

教会法廷は福音の計画の反映であります。それは人々を悔改めに導くように考案されたものであります。教会法廷の目的は、その事件に真理の光をもたらそうとするもので、責め滅すものでなくイエス・キリストの福音の永遠の価値

にふさわしく生活再教育を励ますものであります。

真の悔改めは、過ちを認め、その行為を心からいかんに思って、為した悪いことを回復して過ちから遠ざかることであります。

けれども〝罪は不法である〟（ヨハネ第一書三・四）そして神はいささかの罪をも見逃がし給わないのであります。罪を読けることは、悪い性質をつくり、だんだんと天からの恵みを要求出来なくなるのであります。極悪の罪は殺人と聖霊を拒むことでこれらは赦されません。

教会の罰

末日聖徒の教会法廷の最もきびしい判決は、その人の神の王国に対する関係を切断することであります。この法廷の処置は破門であります。それは、その人が教会々員としてのすべての祝福を失うことであります。すべてのエンダウメント、結び固め、又神権、正会員の資格は取去られて無効となるのであります。

けれどもその状態がこの処置を保証するものであるなら、法廷は破門する義務があるのであります。又同様に赦してやることも法廷のすべての人にとって又教会のすべての会員にとって義務であります。

〝この故にわれ汝らに告ぐ、汝ら互いに赦し合うべきなり。そは、人その兄弟の過ちを赦さざれば、その人主の前に罪に値する故にして、そは更に大いなる罪なお彼に在ればなり。主なるわれは、その赦さんと欲する者を赦す。されど汝らにはすべての人を赦すことを求めらる〟（教義と聖約六四・九―一〇）

けれども監督法廷又はその他の法廷に於ける権能を持った判事は各人の罪を宣告し、彼がその極刑を受けるべき地位にあることを宣言するように要求されるのであります。判決の後、すべての判事はその心に赦しの精神を持つべきであります。

一、判事になるには非常に高い標準を要します。大いなる知識、知識、慈悲、愛そして理解を必要とします。これらは完全の属性であります。神は完全であります。それですから神は正しい判事であります。この地上で、神に委任されて働らく人、特に教会法任で働らく人はその判決をするに当って偉大なる判事、神の属性によって動機されねばなりません。判決が与えられたら、その人の回復をはかる為の訓練又は激励の計画が開始されねばなりません。

二、成功的な法廷

教会の法廷は若しその判決を受けた人が真に悔改め、その判決を動機に真理を認め、生活の向上を目ざして進むなら、ほんとに成功したことになるのであります。神がそこでその人の新しい生涯の忠実さに対する最後的な判事となるのであります。その神の注告に従うことによって遂には、以前の祝福がすべて回復される可能性があるのであります。けれども或特定の祝福は神権によってのみ、又は権能を与えられている使徒の一人によってのみ回復されることが出来ます。私たちは、イエス・キリストの福音の目的は、すべての人を救い高めることであることを再び繰返して言わねばなりません。教会は人々を救う為に在るもので責める為に存在するものではありません。

教会法廷の限度

教会法廷の特別の機能はその被告が教会の会員としての資格があるかどうかを定めることであります。これが教会の持っている判決の権利の範囲（教会の正会員たること）であります。会員は正会員たる資格を失うことなくて、活動又は祝福を取り上げられることもあり得ます。法律違反に対する処置はその国の政府の裁判所の管轄であります。

一、教会法廷開廷の原因

教会の中で会員が正会員たる資格を裁かれる多くの罪があります。それらは偽りの教義を教えること、福音の教えに故意に従わない行為、反抗的なこと、いろいろな形をとった不貞節（貞節の律法を破る）

二、国の裁判所の場合

教義と聖約四十二章七十九節及び八十四節から八十六節迄に国の法律に向けるべき反社会的な行為が特に参照してあります。同時にこのような行為は神の誡命をも破る行為であることが強調されてあります。

〝何にても不法なる行為ある男女は引き渡して律法に問うべし。すなわち、神の律法によりて処置すべきなり〟（教義と聖約四二・八七）

教会は主の律法を犯した行為を処置し国家は国の法律に違反し

た行為を処置します。

三、相互理解

反社会的な行為の取扱いに就て主はその教えの中で指摘して居ります。第一に若しも二人の人の間に問題があるなら、彼らは集って相互理解によってその問題を解決すべきであります。若しも彼らが同意出来なかったら支部の教師を呼んで、その解決を援けてもらうべきであります。教会法廷に出さなくてすむように、利害関係者間に於て、あらゆる努力が払われねばならない。これを成功するようにするには両方とも正直で誠実で寛容でなければなりません。主は又悔改めた人の確信の重要性と神聖さを教えています。そして実際にその問題に関係した者のみが話合い及び解決に参加すべきであると強調して居ります。

正会員たる価値

教会が会員に課することの出来る二つの罰があります。罪を犯した者は、正会員たる資格を取られるか破門されます。正会員たる資格を取られることは、教会内で如何なる職に就くことも出来ず、その活動が非常に制限されます。けれども彼又は彼女はその後の正しい生活によって再び正会員に戻れます。

けれども破門はその人の名を教会の記録から取除き教会活動及び祝福に於けるすべての権利を取り去られます。会員に復帰する唯一の道は悔改めとバプテスマであります。或、犯罪者は処置された法廷によって会員に復帰出来ますが、その他の者は大管長会及び十二使徒会又は少くとも教会の大管長又はその指示によって決定されねばなりません。

経続する責任

末日聖徒イエス・キリスト教会に於ける正会員たる資格は神聖で経続するものであります。バプテスマによって又、神殿に於て又、神権を受けることに於て、なした誓約は永遠性を持って居ります。一度この教会の会員となった者は只、法廷の処置と破門によってのみ除去されるのであります。けれども一度誓約がなされ儀式が執行されたら、その責任は決して終らないのであります。法定の処置は祝福を取り去りますが彼が持った真理に対する知識を取除くものではありません。人が一度父なる神と御子イエス・キリストと聖霊の実在の証を受けたらたとえ破門されてもその証をする責任から解放されるものではありません。神は永遠であり、最後の判事であります。"その企図は敗るることなくまたその御手を止め得る者絶えてなし"（教義と聖約七六・三）

教会法廷の構成

通常教会には三人の司法官が居ります。彼らは

㈠監督法廷

この法廷は監督と二人の副監督によって構成されます。その管轄は彼らのワード部の会員に限られます。若しも副監督が得られないか又は失格した場合、監督は高等評議員会々員でない大祭司を一人か二人任命して彼と共に法廷に着席させることが出来ます。特別な場合にステーキ部長会は監督に他のワード部の法廷を開くことを命ずることがあります。これは被告が、彼の所属するワード部の監督がその事件に関係していると信ずる理由があるときに行われます。そこでこの人は法廷所の変更をステーキ部長に申請することが出来ます。

監督法廷は有罪と認められた平会員及びアロン神権者の有罪と認められた者に対し、破門を宣告することが出来ます。この法廷はメルケゼデク神権者に対しては正会員たる資格を取り上げることだけが出来ます。けれども彼らはそのような事件をステーキ部高等評議員会に任せてそれ以上の処置に附せることが出来ます。又監督法廷からステーキ部高等評議員会に控訴する権利も認められて居ります（教義と聖約四二・八七―九二、一三四・一〇、十一）

㈡ステーキ部高等評議員会法廷

この法廷はステーキ部長会によって管理される高等評議員会々員である十二人の大祭司によって構成される。これは監督法廷からの控訴を聞きますが、事件はこの法廷で始られてもよいのです。より重大な事件だけがこの法廷にもたらされます。この法廷から教会の大管長会に控訴することが出来ます。（教義と聖約一〇二）

㈢大管長会

教会の大管長は二人の副管長と共に親しくこの法廷を構成します。教会で生ずる如何なる事件でも判決する権力を持って居ります。彼らは必要と考える時に

は他の大祭司を召して援けてもらうことが出来ます。この法廷の主な機能は全教会からの控訴を再検討することであります。この法廷の判決は最終的なものであります。（教義と聖約一〇七・七九　一〇二・二七）

㈣伝道部に於ける法廷

伝道部長は彼の管轄する伝道部内の教会員に対し正会員たる資格、及び会員たる資格（破門）を裁判する権能を持っています。伝道部長は法廷評議会に奉仕する人を選び認められた形式に従って法廷を管理する責任を持って居ります。

伝道部内で教会の正会員たる資格及び会員たる資格を裁判する法廷は、伝道部長によって召集され伝道部長自身が管理する長老法廷か又は伝道部長の許可を得てその指示の下に開かれる支部長会法廷に限ります。

支部法廷

支部法廷は伝道部長の完全なる了解の下にすべての会員の正会員たる資格に就て、又女子会員及びメルケゼデク神権保持者以外の男子会員の破門に就ての処罰をすることが出来ます。

支部法廷がメルケゼデク神権保持者を裁く時にそれが破門の必要を生じた場合は、その事件を伝道部長の管理する長老法廷に引渡します（伝道部長の手引き）

監督法廷の手続き

教会の裁判を正しく行う為に明確な手続きがあります。その各段階がそれぞれ必要欠くべからざるものであります。

㈠第一段階は監督によって保証された原告が告訴状に署名することであります。

㈡被告に出頭の為の予裕を与えて召集状を出す。

㈢裁判は祈りを以て始められます。

㈣告訴状が読まれ、被告は有罪か無罪か陳述するように要請されます。

㈤若しも有罪なら判決が宣告されます。

㈥若しも無罪なら（陳述が）裁判は続行されます。

㈦告訴状の真実性を確立する為に証言が検討されます。

㈧弁護の為の証言が調べられます。

㈨各証言の証拠が記録されます。

㈩この記録はその証言をした証人に読み聞かせ若しも誤りがなければその証人は署名をします。

(十一)すべての証拠が出揃った時、監督会は判決を下します。

(十二)判決は、その為に設けられた欄に記入されます。

(十三)写し一部は被告に渡されます。

(十四)若しも被告がメルケゼデク神権を持って居り、法廷が破門を提案する場合は、裁判の完全な報告とその提案文はステーキ部長会に送付されます。

(十五)この法廷で用いられたすべての書類は特別な書物にまとめて裁判の完全な事件記録を作成します。

事件の判決を下す責任は管理する役員にあります。彼は評議会の支持に投票を求めます。

結　論

教会法廷又は裁判評議会は罪を犯した者の個人的な進歩の為に大切なものであります。彼らは訓練の術を刺戟します。彼らは罪ある人に対し健全な効果を及ぼします。これらの法廷は高い理想を支持し又維持し私たちの生き方を価値あるものとします。

愛は神権の真の動機でありすべての人類社会にとって根本的なものであると云うことは銘記されねばなりません。

教会法廷に於ける裁判の執行は主自身によって確言されましたように完全な慈悲の内に行われねばなりません。

参　考

教義と聖約　四十二章　一〇二節　一〇七章ウイッオ・ジョン・エイ、神権と教会制度十七章　教会のプログラム　二一章　タルメージ・ジェームス・イー　信仰箇条二三章

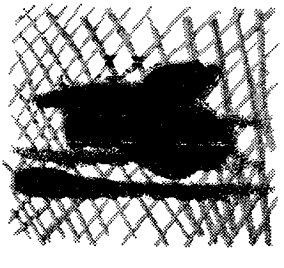
討議の為の考え

一、法廷は如何なる方法に於て律法と秩序に貢献していますか？

二、悔改めの真の証拠は何ですか？

三、神の律法の目的は何ですか？国の法律の目的は何ですか？

四、悔改めと赦しには如何なる相互作用がありますか？



February 7

I. *(s) Nouns in the Simple Plural*

A. Write on the board and *repeat after the teacher*

[s]		[z]	
1. will	wills	4. rooms	rooms
2. skin	skins	5. pencil	pencils
3. hut	huts	6. corner	corners

B. To make the simple plural of a noun, we add the letter (s) to a singular word. This S is sounded (s) after a voiceless sound and (z) when following a voiced sound.

C. Read aloud, write on the board, and form simple sentences from:

[s]		[z]	
1. debt	debts	1. window	window
2. wall	walls	2. leg	legs
3. store	stores	3. room	rooms
4. seat	seats	4. read	reads
5. desk	desks	5. wood	woods
6. light	lights	6. way	ways

II. How to make simple negative sentences from simple affirmative sentences.

A. Write on the board and repeat for the class

AFFIRMATIVE	*NEGATIVE*
It is s shirt.	It's *not* a shirt.
It's a cabin.	It's *not* a cabin.
That is a bed.	That is *not* a bed.

B. *Not* is a *negative word*, in simple sentences it always follows the verb IS and makes a sentence negative.

C. Class participation — read each of the following questions, then make it a negative sentence, and add to it an affirmative sentence. (Have the class ask one another.)

Examples: Is this a cabin? No, it's not a cabin. It's a hut.

1. Is this your mother?
2. Is this an oak tree?
3. Is this a shirt?
4. Is this a book?
5. Is this a corner?
6. Is that a chair?
7. Is today Wəɑnesday?
8. Is that your pen?
9. Is that the floor?
10. Is that a song book?

III. The Story - Explain a little about Lincoln to introduce the story and read the whole story through once for the class. Then help them read the first section to be covered this week. Emphasize the following words:

1. cabin
2. corner
3. to cleat (cleated)
4. skins
5. to crawl (crawled)
6. leg
7. roughhewn
8. backwoods
9. shirt
10. single room hut

Request that they review this section, then read and study the second section of the story for next week.

February 14

I. *ON and IN the place words (Prepositions)*

A. Use the place word IN when something is inside or within certain limits.

Use the place word ON when something touches a surface.

IN	ON
1. in the corner	1. on the floor
2. in the box	2. on the table
3. in the woods	3. on the chair
4. in the book	4. on the wall
5. in the cabin	5. on the bed

II. (ES) *Nouns in the Plural*

A. Write on the board and *repeat after the teacher.*

S - SS		ge - ce - se - ve	
1. address	addresses	1. house	houses
2. press	presses	2. emerge	emerges
3. class	classes	3. arrive	arrives
4. exercise	exercises	4. page	pages

B. If a singular noun ends in GE, CE, or SE, the plural is made by adding (s). The (ES) is always pronounced (IZ).

C. Repeat the words after your teacher, changing only the subject and the verb. Make each sentence from the singular to the plural.

Example: The house *is big.* The *houses are* big.

1. The page is in the book.
2. The pen in on the table
3. The piece of cloth is on the floor.
4. The picture is on the chair.
5. The store is small.
6. Where is the lesson?
7. Where is the class?
8. Where's the orange?
9. Where are the woods?
10. Where is the wilderness?

III. The Story—Ask if there are any questions concerning the story; then read this week's section aloud. If time permits, have the class read and participate in explaining and pronouncing.

Study Words:

1. Neighbor
6. woods

2. Faith
3. Ann Rutledge
4. To ramble (rambling)
5. press (was pressed)
7. burial ground
8. debts
9. bankruptcy
10. "Honest Abe"

February 21

[I. IT and THEY the subject pronouns

A. Examples for study and pronounciation - repeat for the students.

1. What is this? It's a will.
2. What is that? That's a shirt.
3. What are these? They are wills.
4. What are those? Those are shirts.
5. Is *this* (that) a shirt? (It is.)
   No, *It's not* a shirt. What is *it? It's* a skirt.
6. Are these (those) wills?
   No, *they're not* wills. what are *they?*
   They are books.

B. *It* is used as a subject proboun when referring to *THIS* or *THAT.*
THEY is used as a subject pronoun when referring to *THESE* or *THOSE.*
IT'S is a contraction of *IT IS.*
They're is a contraction of *THEY ARE.*
C. *IT* and *THEY* are also used as subject pronouns to refer to nouns already mentioned.

1. Where's *the cabin?* *It* is in the woods.
2. Where are *the beds?* *They're* cleated to the wall.
3. There's a *will* on the table. Where is *it?*
4. There are several *attornies* here. Where are *they?*

D. For practice and class recitation, answer the following questions in the negative and the affirmative, being sure to use THEY'RE (THEY'RE NOT) and IT'S (IT'S NOT) in the answer.

Example: Is this a cabin? Yes, it's a cabin.
No, it's not a cabin.

Is this a cabin? Yes, it's a cabin.
No, it's a house.

1. Is this the wilderness?
2. Is that a will?
3. Is this a shirt?
4. Is that a single room hut?
5. Are those stores?
6. Are those skins?
7. Are these debts?
8. Are those men?

II. The Story - Ask if there are any questions concerning the story. Then read this week's section aloud an as time permits utilize the story for class participation.

1. frontier
2. attorney
3. legislature
4. Abraham Lincoln
5. polls
6. Presidency
7. to emerge (emerged)
8. Great Emancipator
9. Civil War
10. Gettysburg Address

III. Talk some about George Washington and since his birthday is on February 22, *ask the class members to prepare a short paragraph about Washington for the following week using the following words:*

1. President
2. general
3. cherry tree
4. 'Father of His Country'
5. faith

February 28

I. *Ask the class for the compositions about George Washington* and read as many as possible for the time, correcting the errors and commenting as you feel necessary.

II. THE STORY - Read the last section of the story with emphasis on the study words:

1. scarcely
2. a plot
3. deathbed
4. will
5. mansion
6. esteem

III. Use the remainder of the class time to tie the month together by covering material missed in past weeks, by reviewing the past months lessons, byre viewing and asking questions about the story's words and their meaning and by having the class read and discuss from the story.

BORN IN A CORNER

FEBRUARY 7

Most people know he was born in a log *cabin* in the Kentucky wilderness. Few know he was born in a *corner* of that single *room hut.*

He entered the world on a bed of poles *cleated* to the cabin corner. The poles were spread with corn husks and bear *skins.* But one day, Abraham Lincoln *crawled* out of that corner. His father joked how his *leg* were gtting longer and his mother, *on how* he *outgrew* his *shirts.*

But there were other corners ahead for this *roughhewn* on of the *backwoods.* His whole life was to become a series of corners.

FEBRUARY 14

When just a boy of 17, Abe swung an ax hard and deep into wild hickory, walnut, oak and elm. *Neighbors* said his axe could do the work of three men's. Abe came out of that corner remembering his mother's *faith* in God, how she read to him from the Bible by the light from the cabin fire.

Death pushed Abe into a corner when *Ann Rutledge* died. Shortly afterward they found Abe *rambling through the woods,* mumbling to himself. He stumbled to the *burial ground* seven miles away. There he lay with an arm across the grave. He came out of that corner taller, too—in tenderness: and it never left him.

Young Lincoln *was pressed into* yet another corner. He was confronted with the *bankruptcy* of three frontier stores. It took him years to pay off the *debts.* but he emerged being called "*Honest Abe.*"

FEBRUARY 21

As a *frontier attorney,* he was mocked as a "Gawky ape." He lost in bids for seats in the Illinois *legislature,* Congress and the United States Senate. From them he *came forth* taller — in wisdom, in the ways of men.

Abraham Lincoln achieved his greatest triumph at the *polls* when he was elected to the *Presidency* of the United States. This success also brought his greatest trial. The South left the United States, and he became the central figure in the worst problem to that time. But Lincoln *emerged* as the *Great Emancipator;* and from one of the *Civil War's* bad battles came his immortal *Gettysburg Address.*

28

Scarcely had victory arrived that there was *a plot* to put Lincoln in a corner for good. He was shot from behind while at the theater. His tired head slumped. By morning he was dead. But it was not his end. Years before, sitting at the *deathbed* of a woman who had asked him to write her *will* he had repeated from memory:

FEBRUARY

"In my Father's house are many mansions: if it were not so, I would have told you." (John 14:2)

So Lincoln stepped from that corner toward a *mansion* and, with the years he *continues to become* taller — taller in the love, *esteem* and gratitude of men and wome everywhere.

The Instructor, February 1959

For Study From the Story

WORDS

1. cabin
2. corner
3. skins
4. legs
5. shirts
6. roughhewn
7. backwoods
8. neighbors
9. faith
10. burial ground
11. bank rupcy
12. debts
13. frontier
14. attorney
15. legislature
16. polls
17. scarcely
18. a plot
19. deathbed
20. will
21. mansion
22. esteem

VERBS

1. cleated (to cleat)
2. crawled (to crawl)
3. rambling (to ramble)
4. emerged (to emerge)
5. out grew (to out grow)

PHRASES

1. single room hut
2. on how
3. through the woods
4. was pressed into
5. came forth
6. continues to become

NAMES AND THINGS

1. Kentucky
2. "Honest Abe"
3. Abraham Lincoln
4. Ann Rutledge
5. Gettysburg Address
6. Great Emancipator
7. Civil War

図書案内

教義と聖約
高価なる真珠
モルモン経　上質革製合本……1100円

教義と聖約
高価なる真珠　合本……300円

モルモン経（新訳）……300円
信仰箇条の研究……330円
モルモンとは？（新版）……150円
総合聖句の手引……150円
日本系図探究要覧……100円
アロン神権者用学科課程……150円
メルケゼデク神権、教師と生徒用
「モルモン経の読み方の手引」……200円
ナザレのイエス……100円
正しい日本史……100円
家督権の祝福……100円
料理の作り方……50円
求道者教育法……120円
神の王国……230円
イエス・キリスト……300円

日曜学校用

モルモン経物語……150円
旧約聖書物語……150円
家族の昇栄……200円
福音の実践……200円
奇しきみわざ(上)(下)……200円
我等の標準聖典……200円
古代の使徒……150円
シオン山の救い手たち……200円
教義と聖約の教え……200円

MIA用

我ら指導者のことば……200円
我らは信じる……200円
我らは奉仕する……150円
生活の目標……150円
MIA・エンサイン・ローレルの手引……150円
演説が上手になる法……150円
素晴しき考え……200円

讃美歌及び歌集

末日聖徒讃美歌（新版）……400円
レクリエーション歌集……400円

……注文は各支部長へ……

支部住所変更

福岡支部　福岡市浄水町四六

THE SEITO NO MICHI
Volume 8, February 1964, Number 2
THE CHURCH OF JESUS CHRIST OF LATTER-DAY SAINTS
NORTHERN FAR EAST MISSION
14 Azabuhiroo-cho Minato-ku Tokyo Japan

支部所在地

北海道地方部

旭川　旭川市八条五丁目
MIA集会場　旭川公会堂
電話（二一一五四五）

室蘭　室蘭市幸町八九
電話（七〇五四）

小樽　小樽市富岡町一ノ三五
電話（二一八二二四）

札幌　札幌市北二条西二四丁目
電話（六三一七八六六）

東中央地方部

群馬　高崎市並榎町二七五

甲府　甲府市山田町六三

松本　松本市同心町六一二

新潟　新潟市中大畑町五五七
電話（二一八六六〇）

仙台　仙台市光禅寺通り二八
電話（二五一〇八九七）

東京中央　東京都港区青山北町六ノ三四
電話（四〇八一三三〇七）

東京北　東京都中野区江原町一ノ八ノ十四

東京東　東京都江戸川区小岩町六一七八〇
電話（六五七一五二二三）

東京南　東京都大田区南千束町二四九
電話（七二九一六三一一）

東京西　東京都武蔵野市吉祥寺町東一ノ七ノ一九

山形　山形市七日町一一八

横浜　横浜市港北区篠原町二九
電話（四九一八七七二）

西中央地方部

阿倍野　大阪市阿倍野区阪南町中一ノ三八
電話（六五一一八三二七）

福岡　福岡市西警固町三六一二

広島　広島市古田町古江四〇〇ノ三
電話（三一一六一三五）

金沢　金沢市上胡桃町一一

京都　京都市下鴨東半木町六六　河合方

名古屋　名古屋市昭和区北山町三ノ四一
電話（七三一四二一〇）

西ノ宮　兵庫県西ノ宮市仁川町四ノ五四
電話（五一〇一四一）

岡町　大阪府豊中市岡町北二ノ一八
電話（二一一三六）

岡山　岡山市北方七〇

三ノ宮　神戸市灘区篠原本町四ノ三五
電話（八六一二六〇二）

柳井　山口県柳井市今市三九一

沖縄地方部

普天間　沖縄宣野湾市野嵩区三二八

那覇　沖縄那覇市松尾区一三九

建築部事務所

東京都港区青山北町六ノ三四
電話（四〇二一四〇一〇）

聖徒の道

1964年2月1日発行
振替口座　東京16226番
発行人兼編集人　ダワエン・N・アンダーセン
発行所　末日聖徒イエス・キリスト教会北部極東伝道部
東京都港区麻布広尾町14
印刷所　合名会社　三五堂

一九五八年三月十七日第三種郵便物認可（毎月一回一日発行）第八巻第二号　一九六四年二月号

定価　七〇円